

西洋占星術用 サインの基礎

西洋占星術のサインの再構築 提案

参考文献

- 『バビロニアのテウクロスから[伝えられた]、12のサイン』 ジェームス・H・ホールデン訳
- 『Liber Astronomiae』グイード・ボナタス著 ロバート・ゾラー、ロバート・ハンド協訳
- 『ヘレニスティック・アストロロジー』 クリス・ブレナン著
- 『古典占星術』 チャールズ・オバート著
- 『古代占星術』 デメトラ・ジョージ著

このサインの項目は、まだまだ未完成です。中には古代の文献に載っていないものもあります。ただ、考察は加えています。

目次

参考文献	3
サイン(Sign)	6
サインと星座	7
サインの意味の再構築	8
サインの様々な分類方法	9
サインの数々の分類方法	11
その他の季節とサインの対応	12
伝統的な占星術におけるサイン	15
サインの意味を構築する、基本的なビルディングブロック	15
その他のサインの機能	16
レトリウス(6世紀頃の占星術師)は <i>Compendium</i> で下記のように書きます	17
テーマ・ムンディ	17
イグザルテーションのロードと、テーマ・ムンディ	18
様々なテーマ・ムンディの考察	19
エッセンシャル・ディグニティーと、デビリティー	20
サインのグループ化による分類	24
各サインの説明	27
サインが示す場所	48
サインが牡羊のサインから始まる理由	53
サインの順番の理由	53
Chapter I.2.1: <i>Objects signified by the signs</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter I.2.2: <i>Limbs and regions signified by the signs</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter I.2.4: <i>Regions signified by the planets</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter I.2.6: <i>Senses ruled by the planet</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter II.1.1: <i>The stars as significators in the triplicities</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter II.1.3: <i>The colors of the signs</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter II.1.4: <i>What each planet signifies through the individual</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter II.1.5: <i>What the planets would signify in terms of colors</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter II.1.6: <i>On the colors and tastes of the planets</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	
Chapter II.1.8: <i>On the discernment of person</i> エラー! ブックマークが定義されていません。	

サイン(Sign)

星座は英語でconstellationです。**サイン**は英語で、zodiac signs、または、zodiacal signsです。日本語では天文学の星座は「**ひらがな**」表記です。西洋占星術の星座は「**漢字**」表記です。しかし、日本語読み上げソフトでは、ひらがな表記でも漢字表記でも同じ聞こえ方になってしまい区別がつきません。つまり、星座(コンステレーション)なのか、星座(サイン)なのか分かりません。その違いを踏まえると、zodiacal signは「サイン」と表記し、constellationは「星座」と訳した方が学習に際しての区別がハッキリさせられます。

雑誌の星座占いを気にする必要はありません。

私たちは、西洋占星術を学んでいるわけですから、西洋占星術の言葉として**サイン**と**星座**はしっかりと区別していった方が分かり易く理解できます。特に、恒星の塊である星座(コンステレーション)を学んでいく段階で、その必要性が腑に落ちます。

また、西洋占星術で使う惑星の定義と、天文学的な惑星の定義も異なっています。西洋占星術を行う場合には、必ず惑星の定義をしておきましょう。これらを疎かにすると、いつか必ず後悔をする事象にぶち当たります。

更に、黄道帯の星座の中には、へびつかい座があつて、実際には星座は13あります。だからといって、13星座占いにする必要はなく、とても遠い歴史の分かる時代から、ホロスコープを使う占星術以前から、占星術では黄道帯のサインは12だけにされてきました。思い切ってエイヤーツと12に分けていたのです。歴史上に、13星座占いは存在していなかったのです。数十年に一度、知ったかぶりの占星術の達人まがいの人が、黄道帯には本当は星座が13あつて、これこそが本当の占星術だと嘯く(うそぶく)ことになっています。道化師[ピエロ]の類だと考えておいてください。それによつても、西洋占星術は宣伝されていきます。それでは、へびつかい座のエレメントは何ですか？ との質問には答えられないでしょう。13は4で割れませんし、カードィナルでも、フィクストでも、ミュータブルにも配されず、13は3でも割れません。どの季節になるのでしょうか？ へびつかい座は、♎のサインと♏のサインの間にあります。サインの名前は？ 無いのです。

サインと星座

太陽、月、その他のギリシャ語で**さまよう星**を意味する(*aster planetes*[アステラ・プラネタス])、ラテン語で遊星(惑星)は、地球の周りを1日1回プライマリー・モーション(時計回り)で恒星を背景にして廻っています。また、1年の軌道として、セカンダリー・モーション(左回り)で、サインと同じ方向に移動しています。一年間の太陽の軌道は、地球を周る黄道と呼ばれる大円¹として定義されます。北半球と南半球を移動します。

黄道帯十二サインは、大円を12等分したもので、正確に30°ずつになっています。1°(度)は、更に、60'(分)に分けられます。60'(分)は更に60"(秒)に分けられます。それ以降も分けられますが、この程度でいいでしょう。星座(Constellation)とサイン(Sign)は異なっています。下記がその図です。



サインと星座のずれ

¹ 大円は、地球の芯を真ん中にして天空に描かれる、これ以上に無い大きな円を指します。北極星の廻る円が小円だとすれば分かり易いでしょう。地平線は地球の芯を真ん中にしていませんが、無限大の宇宙に投影すると、地球の芯を真ん中にしたのと変わらなくなる大円です。

サインの意味の再構築

サインを、現代の古典占星術研究家たちが再構築をしている・・・と聞くと変に思われるかもしれませんが、しかし、事実です。既に、古典的な本にちゃんと書かれているのではないかと考えるところですが、そうではないのです。

伝統的なサインの意味は、これまで構築されてきた歴史を通してきたものの中に、大雑把に別けて3つ存在しています。

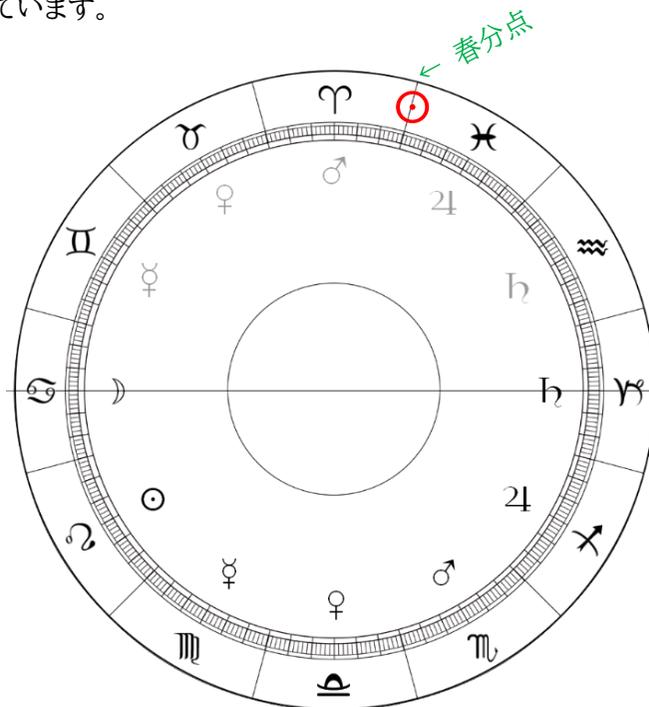
1. 星座(コンステレーションの方)そのものの意味を使ったもの。惑星たちがほぼ一定の星座を通ってくることを見つけた古代の占星術師たちは、それらの星座の意味を遺しています。
2. サイドリアル方式の黄道帯のサイン。誰かが、30度ずつに分割して12サインにしました。作られた当時は、理想的に星座とサインはほぼ一致していたのです。その時代に構築されたサインの意味が残り続けています。
3. ヒッパルコスが、春分点が動くことを見つけてから、トロピカル方式に占星術が移行するまでに300~400年掛かっています。ヘレニスティックな占星術が作られてからしばらくは、星座とサインは一致していましたから、あまり問題は生じなかったのです。でも、春分点や夏至点と一致させないと、カーディナル、フィクスト、ミュータブルは使えません。そういった中で構築されたサインの意味が、新たに生まれました。

そういうわけで、現在、サインはどのような意味を持つのか、基本的な意味で再構築しようじゃないかとの意見があり、それで再構築されつつあります。突飛な意味はそこには入り込めません。基本的な意味とは、季節のエLEMENT、サインのエLEMENT、モード、トリプリシティ、ジェンダー、それぞれのサインのルーラーやイグザルテーションのルーラーの意味を持ち、デトリメントやフォールの意味に逆らうサインの意味です。

例えば、どのホットなサインも行動力を持ちます。コールドなサインは、行動力を使い果たした概念が付きます。ホットなサインは、ひよっとすると行動力と上昇志向を連動させたものと連結されるかもしれません。コールドなサインは、現状に留まること、むやみに動かないことと連結されます。個別のサインに当てはめるには、季節のエLEMENTや、モードも加味していくことになります。

『古典占星術』の中のp.132からのサインのお話は、構築のヒントを与えてくれます。ヒントに過ぎないと考えください。そこではジェンダーの要素や季節のエLEMENTの要素は加味されていませんから(構築された本文には入っています)、まだまだ、サインの意味に広がりを与えることができます。基礎は大事です。基礎を押さえて、新たにサインの意味を自ら掴んでください。

サインは、12あります。太陽は季節の変化を伴わせながら、♈、♉、♊と順番に左回りに進んでいきます。サインは、左回りに構成されています。サインは、カルディア人が考案した春分点(太陽の通り道と、赤道との交点)を基点として、正確に30度ずつを受け持ちながら並んでいます。2500年前に考え出された春分点は、現代の天文学の基準点にもなっています。



歳差運動による春分点の移動は、約26,000年で1回転します。1年で角度にして約72分とされています。天文学では、春分点が移動すると考えますが、西洋占星術では、神々(心変わりしない創造主)の位置は固定されたサイン上にあり、星座(心変わりをする神々の天球)が移動していると考えます。

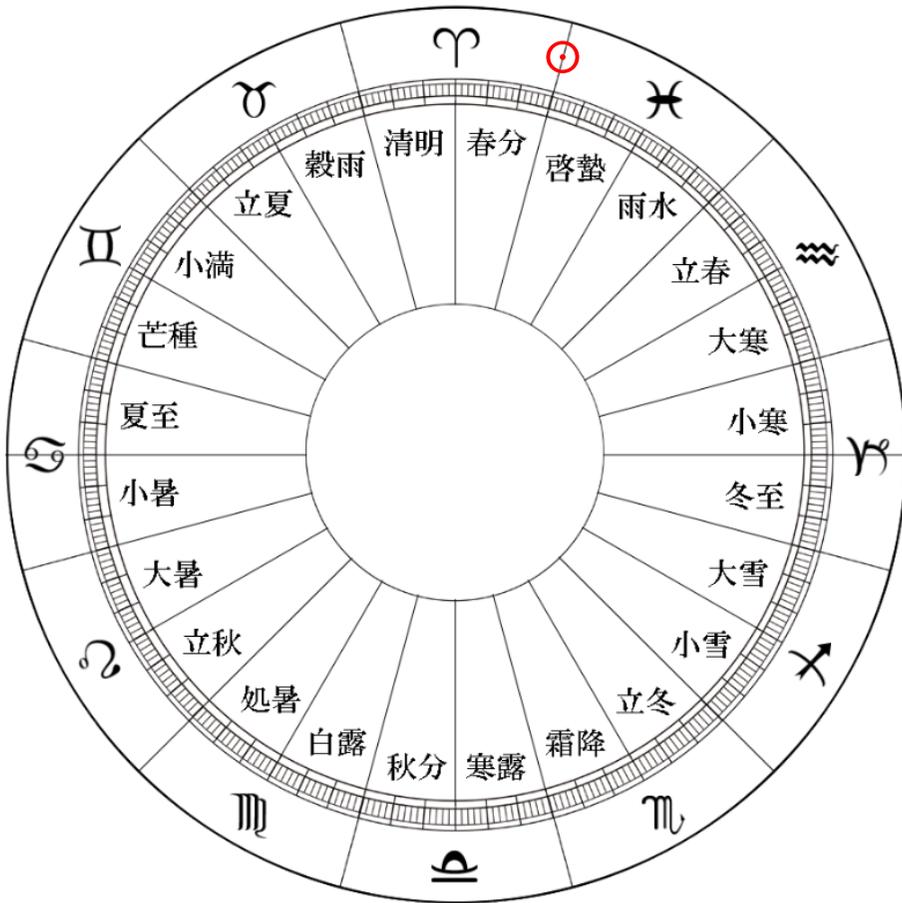
サインの様々な分類方法

言葉で言い尽くせない黄道帯のサインそのものの特徴の説明は、古代の占星術師たちが典型(拠り所)として表現する動物たちの特徴に、ある程度依存しています。以下は、バビロニアのテウクロス²のもので、レトリウスがそれを伝えているものからの抜粋です。アル・ビールニーの『*Element of the Art of Astrology*』

<https://dx.doi.org/10.14989/173271> 矢野道雄、山本啓二共訳も参照のこと。

² ウィルヘルム・グンデルは、「バビロン」という街が、古代のメソポタミアの都市ではなく、むしろ、同じ名前のローマの軍事要塞で、現在エジプトのカイロの都市の一部であったと主張しています。テウクロスの論文の中に含まれている素材が、バビロニア系言語というよりも、内容が、主としてギリシャとエジプト由来であるので、これは妥当であるように思えます。

サインと日本の二十四節季との対応



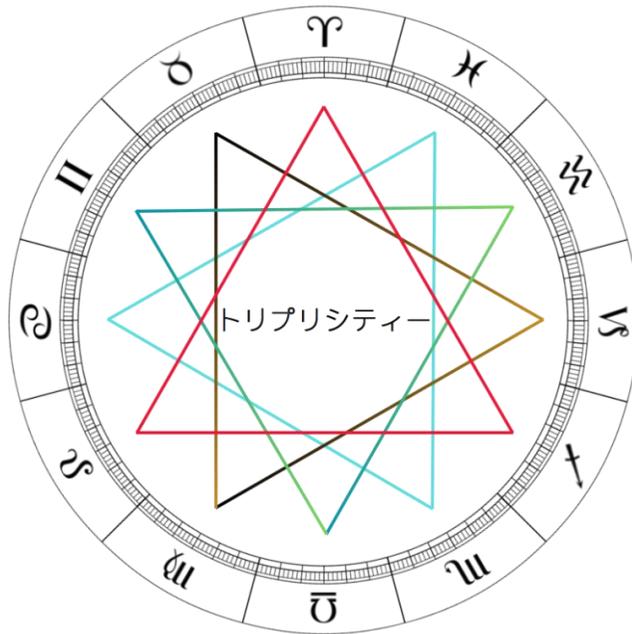
春分点がカルディアで考案されて(紀元前5世紀頃)から、この文化はシルクロードを通り日本に持ち込まれました。また、多くの占いに二十四節季や、春分点を用いるものがあります。それらは春分点(当然、2,500年前)を遡って開発されてはいません。

見事に日本の暦と、西洋占星術のサインは一致しています。

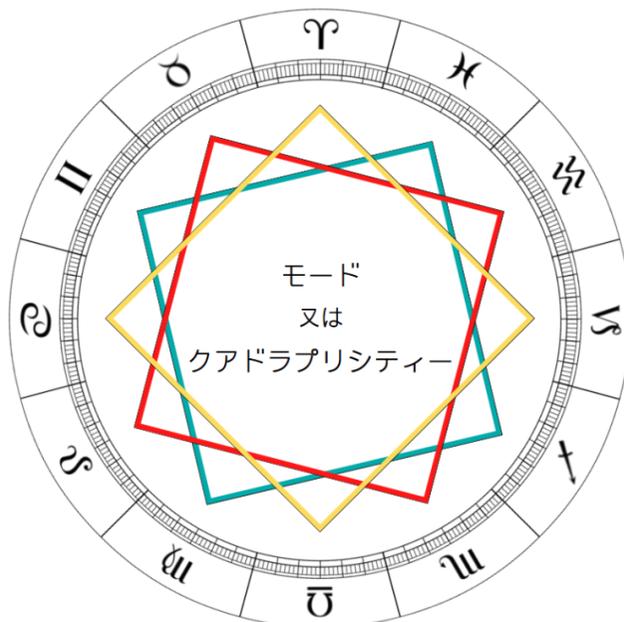
太陽がサインを変えることを、太陽の○○サインへのイングレスと呼びます。♈のサインに太陽が入るときのことを、「♈のサインへの太陽イングレス」と言います。♉のサインに入るなら、♉のサインへの太陽イングレスと呼びます。他の惑星には、「イングレス」という単語があまり使われません。理由があるのかもしれませんが。

サインの数々の分類方法

四つ(火地風水)の元素によるサインの分類(トリプリシティー)

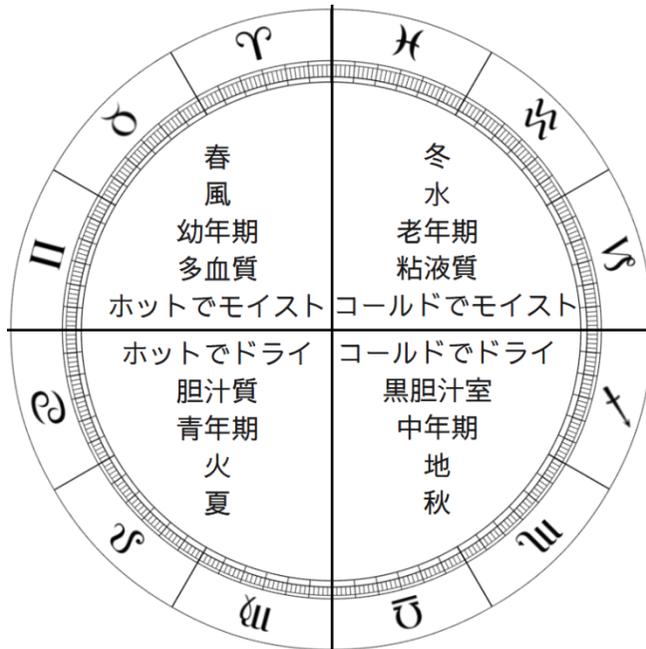


3つのモード(クアドラプリシティー)によるサインの分類
カーディナル(活動宮)・フィクスト(不動宮)・ミュータブル(柔軟宮)



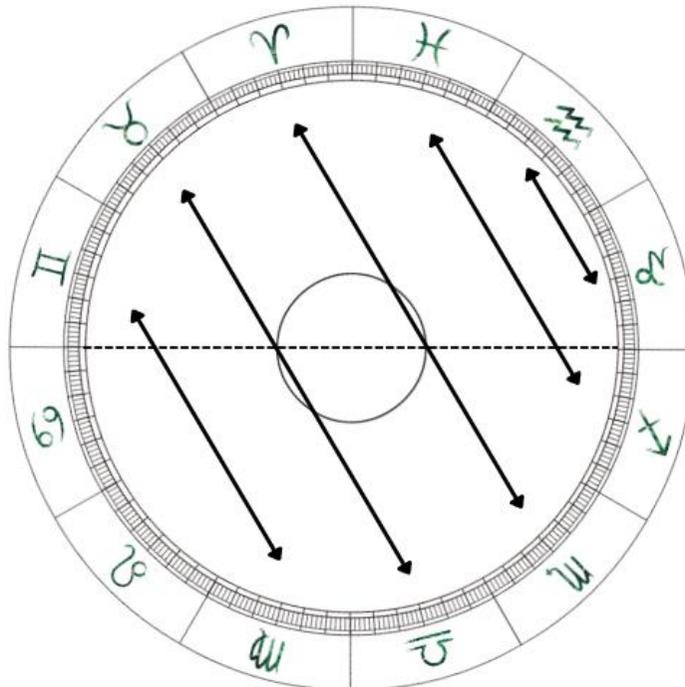
各季節には、始まり、中ほど、終端があります。カーディナル、フィクスト、ミュータブル・サインと呼んでいます。

その他の季節とサインの対応

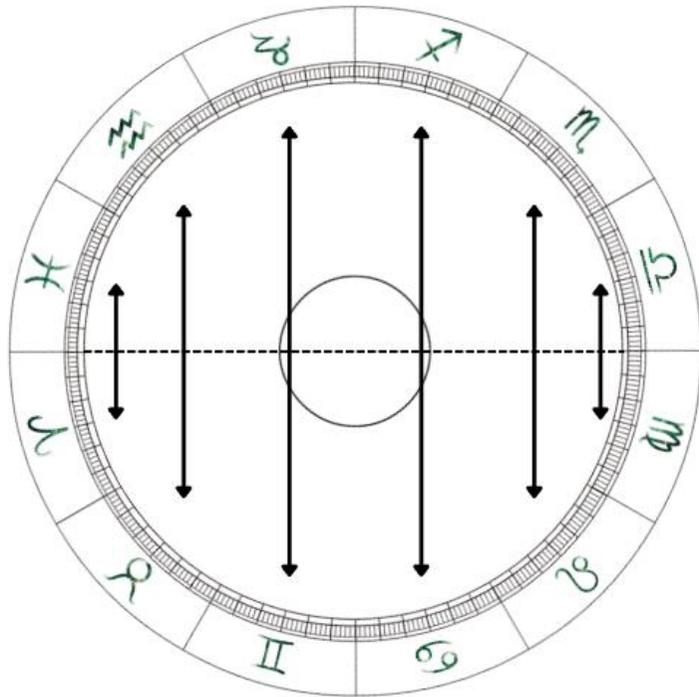


サインは、各季節によって多くの意味合いを持ちます。例えば、♊のサインはコールドでモイストな季節にある、ホットでモイストなサインとなります。エレメントは、掛けあわせて解釈がなされます。

同じルーラーを持つサイン



同じ上昇時間を持つサイン

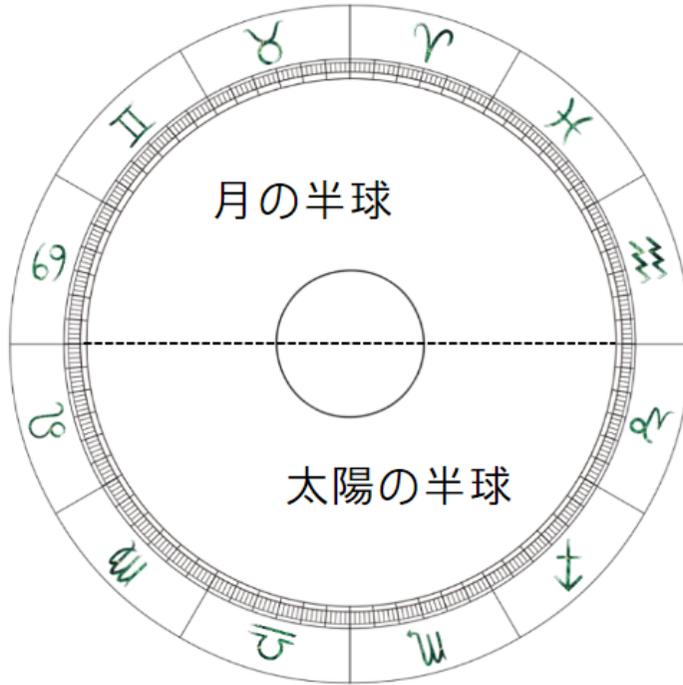


日本だと、♎のサインと♏のサインはほぼ同じ時間(1時間17分ほど)で上昇してきます。♌のサインと♍のサインは、両サインとも東の空から2時間27分ほどで上昇してきます。これらのサインは、上昇時間が約2倍違います。

♏のサインでは昼の時間が長く、♏のサインは夜の時間が長いサインです。♌のサインの5度に太陽があるときの昼の時間と、♏のサインの25度に太陽があるときの夜の時間の長さは同じです。

オポジションの場所の昼の長さ、夜の長さは同じです。したがって、♌のサインの5度の所と、♏のサインの25度の所にある惑星は、まるでオポジションのように作用します。それで、

月の半球と、太陽の半球



北の半球、南の半球



サインには、この他にも天文学的な観察による様々な分類方法が存在します。今のところ、これくらいにしておきます。

伝統的な占星術におけるサイン

モダンな占星術では、生まれたときの太陽の位置で「獅子座はこうだ」、「魚座はこうだ」というほど、サインを基礎にして判断されています。中には、明らかに星座(コンステレーション)の意味を持ってきているものもあります。

伝統的な占星術では、確かにサインを参照しますが、太陽星座占いのような使い方をするわけではありません。伝統的な占星術でのサインの使い方を示します。

伝統的な占星術では惑星が第一義で、アセンダントやハウスが重要視されます。サインは基本的に、惑星がどのように機能するかを決定づける背景であり、環境の役割を果たします。これは、惑星が置かれたサインで与えられる、ジェンダー、エッセンシャル・ディグニティー、レシーブをする惑星の置かれている立場(ここでは、アクシデンタル・ディグニティーが参照されます)、地平線の上下、どのハウスのルーラーなのか、接合する他の惑星の状態にも大きく左右されます。[※ 接合とは、アスペクトとコンジャンクションを合わせた概念です]

- 1) サインは、惑星がどのように表現されるかの、環境の役目を果たします。
- 2) ハウスは、惑星が活動する人生の領域です。

サインの意味を構築する、基本的なビルディングブロック

サインにも、幾つかの基本的なビルディングブロックとされる区分があります。4つの季節と、4つのエレメント(トリプリシティー)、3つのモード(クワドラプリシティー)を使った、サインそれぞれの意味などです。これらを使って基礎からサインの意味を再構築していきたいと思います。

- セクト** - 昼と夜の2つのセクト
ジェンダー - 2つの性([男性、女性のジェンダー]の格)、

以下の、3つモード(フィクスイティー、クワドラプリシティー)の意味を考慮します

- カーディナル** - 行動、開始、変換、素早く動く
フィクスト - 持続性、堅牢性、形がある
ミュータブル - 柔軟性、揺れ動く、より自己内省的

4つのエレメント(トリプリシティー)の意味

- ホット** - 外へ向かう、動き出すのに必要な力
火(Fire)H&D - 原初的、行動、活発、情熱、熱狂的、外部からの指示、分離

風(Air) H&M - 二義的、受動的、知性、接続(つなぐ要素)、コミュニケーション、言語で表現される、方向性は定まらない

ドライ - 火によって乾く。発生したものが継続・持続される

コールド - 受け入れる、動くものを止める力

地(Earth)C&D - 二義的、受動的、構成物(物質)、安定性、実用性

水(Water)C&M - 原初的、感情、反射、受動性、感受性、内面的、境界を失くす

モイスト - 成長したものが腐る段階。コールドに親近感を持つ

四つの季節

春 - ホット & モイスト

夏 - ホット & ドライ

秋 - コールド&ドライ

冬 - コールド&モイスト

その他のサインの機能

1. 惑星の位置表示機能
2. 惑星に、ある特質を持たせる
3. エッセンシャル・ディグニティーの与奪
4. 他の惑星による支え方
5. サイン同士の様々な関係を表現する
6. 肉体の器官、家の内外の場所、国家や街を示す

どうやって、惑星たちはサインの中で働くのか

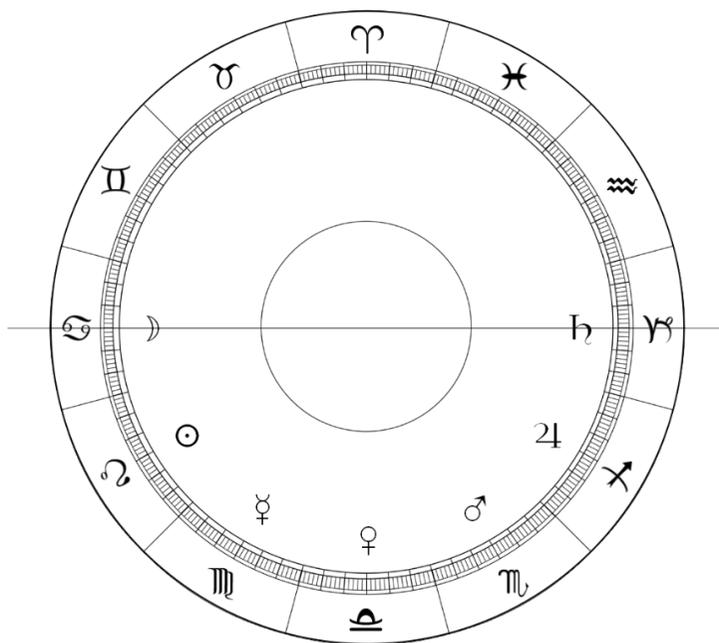
1. 惑星のルーラーシップを通して
2. 性別(ジェンダー)を通して
3. トリプリシティー[火・地・風・水]、とエレメントを通して
4. クアドラプリシティー(モード)を通して

レトリウス(6世紀頃の占星術師)はCOMPENDIUMで下記のように書きます

♈のサインは火、♄のサインは地、♊は風、♋は水、♌は火、♍は地、♎は風、♏は水です。♈、♌、♍のトリプリシティーは火です。♄、♍、♎のトリプリシティーは地です。♊、♎、♏のトリプリシティーは風です。♋、♏、♐のトリプリシティーは水です。これは、十分な考慮を加えて古代人によって語られたものです。全ての存在物は、4つのエレメント、もしくは、星々から構成され、それは又、必然的に人間も同じ性質を分かち合い、これらの4つのエレメントに預かっているのです。これら4つのエレメントの4つの混合に従い、ネイタルの4つのアングルが割り当てられます。すなわち、アセンダントが火のサインならば、10番目のハウスは地のサイン、7番目のハウスは風のサイン、4番目のハウスは水のサインになります。これが混成の種類になるのです。

テーマ・ムンディ

サインのルーラーが決められたテーマ・ムンディ(世界の誕生のチャート)。



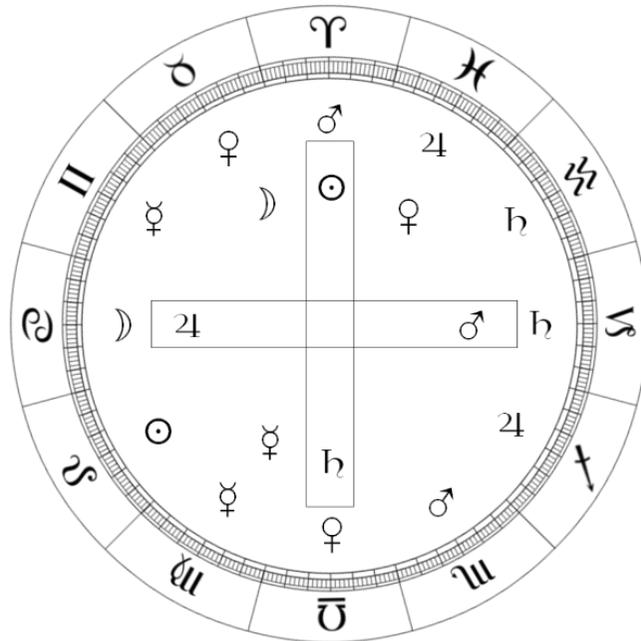
宇宙の誕生のチャート(Thema Mundi テーマ・ムンディ)

テウクロスの説明(後述)で「宇宙のどこそこである」との意味はここから出ています。

テーマ・ムンディは、教育的なチャートです。「世界の誕生のチャート」と名前は付けられていても、当初から、誰もこれが世界の誕生のチャートだとは考えていませんでした。

た。これによって、サインのルーラーが決められたといってもいいでしょう。しかし、歴史的には、イグザルテーションのルーラーの方が、成立したのが早かったのです。テーマ・ムンディと、サインのルーラー、そしてイグザルテーションのルーラーを重ね合わせると、様々な意味合いが導き出されてきます。

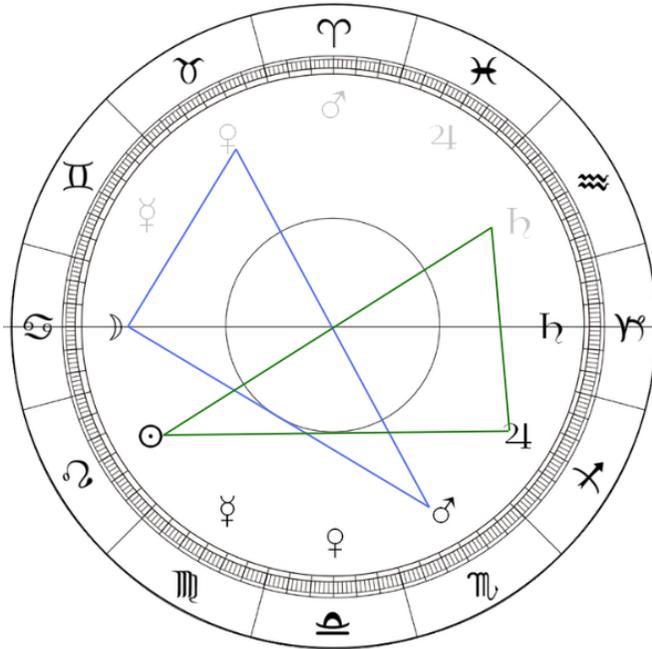
イグザルテーションのルーラーから、幾何学的にセクトのルーラーが導き出されます。そして、セクトのルーラーから、トリプリシティのルーラーが導き出されていきます。



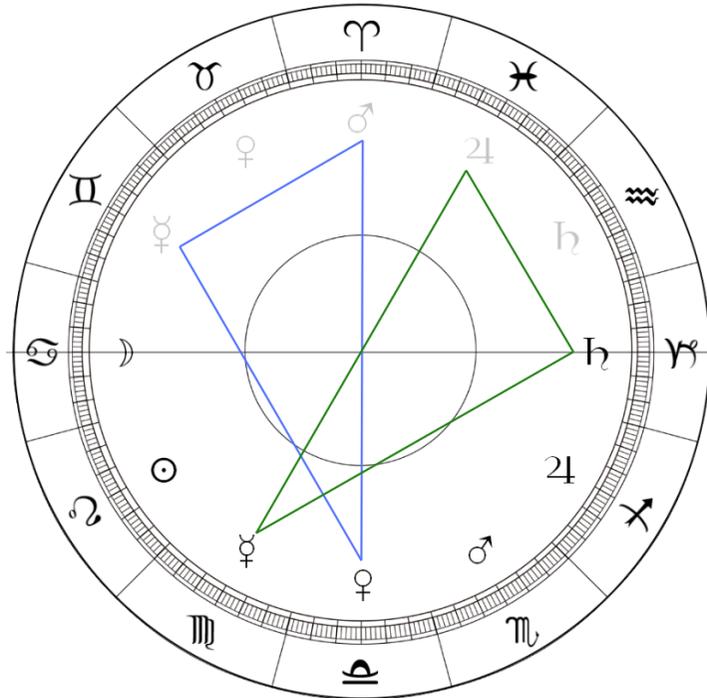
イグザルテーションのロードと、テーマ・ムンディ

様々なテーマ・ムンディの考察

幾何学的な図形から導き出された、セクトの惑星。トリプリシティを結んでみました



上下の図で、地のサインのトリプリシティに水星が入っていた可能性が分かります



エッセンシャル・ディグニティーと、デビリティー

これまで、サインの意味は古典的な西洋占星術の本から導き出されたものを、ほぼ踏襲してきました。しかし、ここへ来て(21世紀になって)、サインの意味をそのサインで大きなディグニティー(ルーラーとイグザルテーション)を持つ惑星の意味から再構築していこうという動きが出てきました。また、デトリメントやフォールになる惑星の意味も加えて、よりハッキリとさせられないかと考えているわけです。幾分、矛盾した意味をしっかりと把握しようとしているのです。何故、ホット&ドライな火星が、正反対のエレメントの♁でルーラーとなっているのか、木星が何故同じエレメントの♃のサインで、デトリメントになるのか等、疑問点を解消しようというわけです。

それらを含めて、各サインでディグニティーやデビリティーを持つ惑星と、サインの意味とどのように関連しているかについて、これまでに分かってきたことを書いておきたいと思います。

ディグニティーを持つ惑星は、そのハウス(サイン)の事柄に対して良い傾向を与えます。特にセクトを得ていると、大きな恩恵を与えてくれます。セクトを離れた惑星は、ディグニティーを得ている、社会的に遅れをとった恩恵を与えると表現してもいいでしょう。時流に乗っていないのです。

デトリメントになっていると、バランスを崩し、コントロールできず、物事がバラバラになる傾向がありますが、嫌いという意味はありません。セクトを離れていると更にそれらが難しい状況に置かれます。不安と緊張と落ち着きのなさが出てきます。例えば、火星がデトリメントで天秤のサインに置かれていると、焦りやすくなるということかもしれません。

フォールの惑星は相手から認めてもらえないと考え、注目を浴びるような行動をとることがあります。ディグニティーの中では最も理解しにくい品位です。フォールの惑星は、他の惑星から気にされません。そのサインでフォールになっている惑星は、置かれている惑星を気にしません。認めていない(信頼観を欠いている)のです。多くの場合、小さなリセプションがあってもアスペクトをしてくる光を拒否し、受け取りません。

次の各サインの説明では、最も一般的な伝統的な占星術の本からでも見つかる意味が一文節目に出てきます。テウクロス(または、テウサー)のものは、ひじょうに古典的なものです。決して、太陽が入っているからと想定しているわけではありません。常に入っている惑星にも影響が及ぶ意味合いです。

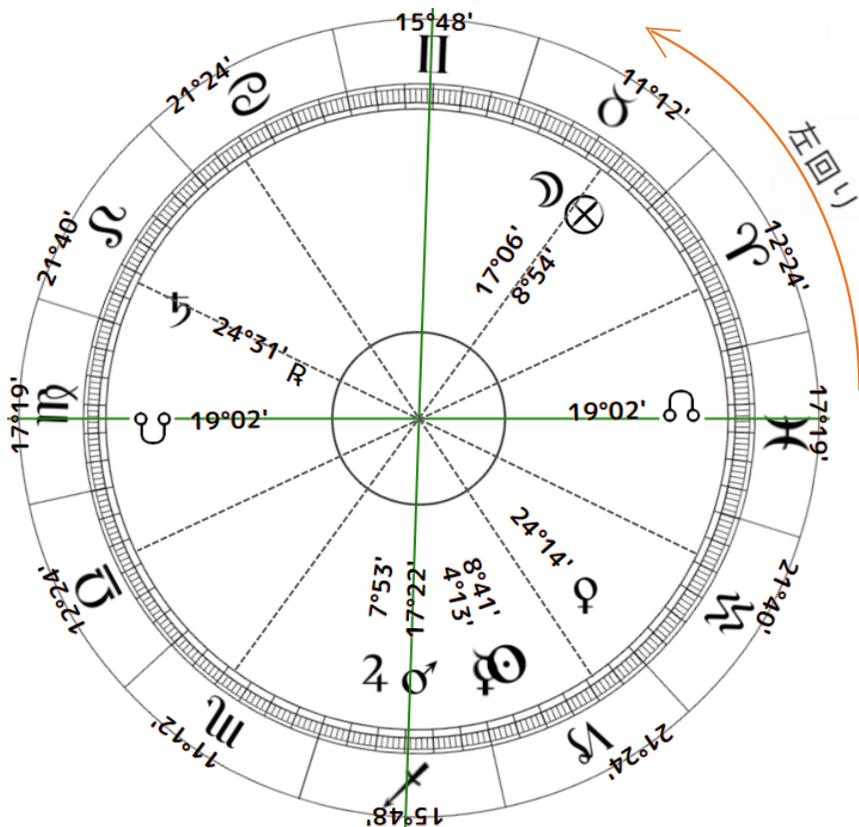
古典的な占星術の文脈の中で、サインとハウスはどのような関係にあるのでしょうか。サインとハウスは別々の文化圏から出てきたもので、同じはずはありません。

- A) サインは、惑星の意味を微妙に修正します
- B) ハウスは、惑星にハウスのトピックとしての役割を与えます

サインの捉え方と、ハウスの捉え方は、明らかにチャート解釈上の別々の概念として捉えられてきました。この小冊子ではサインのお話をしていくので、主に惑星とサインの関係について書き出していきます。惑星とハウスの関係については、別の小冊子をお待ちください。

サインはホロスコープ(以降チャートを使います)の円環の中を、♈、♉、♊と順に、季節の推移と同じ左回りに進んでいきます。一方、チャートそのものは、惑星たちと一緒に、右回りで刻々と動いています。右回り[時計回り]のことをプライマリー・モーションと呼び、左回りに、惑星たちが移動して動いていく方向を、セカンダリー・モーションと呼びます。

サインの中を移動する惑星の動き(セカンダリー・モーション)



ハウスはエジプトの文明から、サインはカルディア人(メソポタミア人の人種の1つ)が春分点を見つけたことからメソポタミアの文明から持ち込まれたものです。テウクロスはギリシャの人で、彼の遺したものは、レトリウスの書いたものや、少数の占星家によって残されてきました。

古典的な占星術では、サインの意味は惑星の意味よりも下に感じられることが多々あります。サインの意味が強く述べられていないことが多いのです。これは、サインが

元々惑星の振る舞う環境として、背景として考慮されることがベースになっているからです。

古典的な占星術のサインの意味は、そのサインのルーラーやイグザルテーションのルーラーといった、主だった惑星の意味から導き出されているものです。

抒情詩家のマニリウスは、下記のようなキーワードでサインの意義を捉えようとしています。

☽ Receive	受理する、受け取る、迎え入れる
♁ Emit	放つ、放射する、出す
♁ Destabilize	安定性を損なう、不安定にする、動揺させる
♌ Reconcile	和解させる、調和させる、一致させる
♏ Separate	分離する、隔てる、仕切る、区切る
♈ Affirm	支持する、賛同する、認める
♊ Exclude	排除する、締め出す、除外する、許さない
♎ Reject	拒絶する、拒否する、拒む、断る、認めない、却下する
♋ Stabilize	安定させる、固定する、一定に保つ
♏ Sever	切る、分ける、解消する、断つ
♎ Unify	一まとめ、統一する、一体化する、一元化する
♏ Argue	意義を唱える、反対する

クリス・ブレナン著、ヘレニスティック占星術, p239より

マニリウスはエレメントという観点からではなく、サインのルーラーと、オポジションとなるサインのルーラー(つまりデトリメントの惑星)を対比させることで、各サインの基本的な意義を見出そうとしたようです。観察しているのは明らかに惑星(ルーラー)と、デトリメントの惑星(オポジションのサインのルーラー)です。イグザルテーションの惑星を加えてみた形跡は残念ながら見出せません。

この方法でも、サインの大きな意義を物語る一面を見て取ることができるので適用できないことはありません。ただ、どのように観察しても、たった一つの意味合いでサインを語るができないということも定かです。けれども、このような視点がないことには、更に五里霧中になることにもなります。何か歯がゆい思いを抱きながらも、キーワードで全ては語り切れないという物足りなさがします。このような考え方は多くの占星家も行ってきたので、そういうものとして、ザックリと大らかに受け入れるのが良いのだと思います。

その他の大勢の占星術師が、サインをどう捉えてきたのかを俯瞰することにも意味があると考えられ興味が湧いてきます。例えばレトリウスもマニリウスのように、太陽は支配する獅子のサインの位置から、土星のサインとオポジションであるから世界を

照らす星だと述べます。火星のサインも金星のサインのオポジションであるとして、全く正反対の意味を持つとしています。

このような意義付けを調べていっても、まだまだ占星術はサインの意味できえも確実に確立されたものがないのだと分かってきます。それらの面から、何故、現代の古典占星家たちが、サインの意味を再構築しているかが分かっていたらいいものと思います。

私にはモダンな占星術の述べるような、♋のサインが**現実主義者**であるとか、どこか**優しさを備えた体の丈夫な人**とかの意味が、どこから出てくるのか皆目見当も付きません。エレメントからも、惑星の意味からも、牡牛のサインの前に広がるコンステレーションの**おひつじ座**からも見出せないのです。牡牛という動物から出てきたのでしょうか？

歴代の占星術師たちはサインに付いて様々な詩の形式で書いています。例えばレトリウスという占星術師は、下記のように述べています。

黄道帯の大円は傾きながら動いていて、サインと呼ばれる12のセクションに分けられる。第1の区画は♈のサインである。サインはその前面に現れ出た星座と恒星に依存しながらデーカン(10度角)を支配するフェースの惑星たちにも左右される

レトリウスの書*Compendium*より。テウクロスの伝えたもの

サインのグループ化による分類

サインを天文学的に考察した方法は、先述した以外にもあり、サインはその描かれる図像の外見に従って分類されてきたものもあります。それぞれのサインに寄与した図像(イメージ)の特徴が引き継がれているのです。これらのグループ分けの中には、初めて接するものも多くあると思いますし、案外グループ分けによる特徴は、その個人を特徴付けることがよくあります。例えば、アイルトン・セナのネイタル・チャートには、危険な／破壊的なサインが多くの惑星の位置を占めるといった特徴があります。これらの分類は、占星術師によって多少の違いがありますが、チャートを明確にする際に、アセダント、アセダントのロード、(太陽ではなく)月の入っているサインの意味に、より頼っています。もちろん、全ての惑星を観察することを忘れてはいけません。

人間的(理性的、好ましい外見、美しい声、東方で繁栄する)。
♈のサイン、♉のサイン、♊のサイン、♋サイン、♌サインの前半

獣的(動物の名前の基にある)。
♍のサイン、♎のサイン、♏のサイン、
♐のサイン、♑のサイン、♒のサインの後半

翼を持つもの：つまり、飛び立つ、故郷を後にするとも言われます
♈のサイン、♉のサイン、♊のサイン(♌)

完全な四足動物(四つ足の動物)。
♍のサイン、♎のサイン、♏のサイン、♑のサイン、♒のサインの後半

地上の物(陸上で生きる)。
♍のサイン、♎のサイン、♏のサイン、♐のサイン、
(♈のサイン、♉のサイン、♊のサイン、♌のサイン)

両生類(陸上と水上の両方で生活する)：
♋のサイン、♑のサイン、♒のサイン

水中(水の中で生活する)：
♊のサイン

豊穡(子孫を多く残す、3つの水のサイン)：
♋のサイン、♐のサイン、♊のサイン

やや豊穡のサイン：
♎サイン、♑のサイン

やや不妊のサイン:

♍のサイン、♋のサイン

少作(子供が少ない):

♍のサイン、♏のサイン、♎のサイン、♌のサイン、♍のサイン、♋のサイン

不妊のサイン:

♈のサイン、♏のサイン、♎のサイン

話す能力(話し上手になる能力):

♈のサイン、♎のサイン、♎のサインの後半、射手のサイン前半、♋のサイン

話すのが少しか、中くらい上手:半声とされるサイン

(動物の鳴き声、低い声、咆哮のイメージで語られる):

♍のサイン、♏のサイン、♏のサイン、♍のサイン、♌のサインの後半

黙る/声を失う(声を出さない、吃音、あまり咆えない動物のイメージ):

♎のサイン、♍のサイン、♋のサイン

単体の形状(財産を共有せずに保持):

♍のサイン、♏のサイン、♎のサイン、♏のサイン、
♎のサイン、♍のサイン、♋のサイン

双体の形状(財産を共有、仲間に与えたり受け取ったりする):

♋のサインと♈のサイン、♍のサインと♌のサイン、♎のサイン

自由(走り回る)サイン:

♍のサイン、♏のサイン、♌のサイン(手足を完全に構えて立っている)、
♎のサイン、♈のサイン、♋のサイン

卑屈な(疲れて、だらしく、心が疲れて座っている):

♍のサイン、♎のサイン、♍のサイン、♎のサイン、♍のサイン、♋のサイン

淫らな/猥褻な:

♍のサイン、♏のサイン、♍のサイン、♋のサイン、♎のサインの一部

好色で/猥褻なサイン:

♍のサイン、♏のサイン、♏のサイン、♍のサインの一部、
♋のサイン、♎のサイン(星座の山羊座が共に昇るため)

危険な/破壊的な(マレフィックな惑星のドミサイル、又はイグザルテーション):

♌のサイン、♍のサイン、♎のサイン、♏のサイン、♐のサイン

壊れた/不完全な/不具(身体や手足の歪み):

♌のサイン、♍のサイン、♎のサイン、♏のサイン、♐のサイン、♑のサイン

荒れた肌、ハンセン病の、汚らしい、壊血病の:

♌のサイン、♌のサイン、♑のサイン、♎のサイン、♏のサイン、♏のサイン

健康な/完全な(強い、頑丈、災難に巻き込まれにくい):

♌のサイン、♍のサイン、♐のサイン

古代の文献では、多くのこれらの特徴は、共に肉体を意味するアセンダントのサインと月のサインに関連していました。なぜならば、太陽は魂との結び付きがより強かったからです。

個々の人が自分の核となる本能に従って行動するとき、その個人は、出生チャートで目立つ黄道帯のサインのイメージで表される、動物的行動のいくつかを表現することがあります。実際には星座(コンステレーション)や恒星の意味かもしれません。

何故、肉体的な特徴が西洋占星術によって際立たないのか

おそらく、私たちは古代の文献に書かれたことに執らわれ過ぎていて、サインの元々の意味である星座(コンステレーション)を見過ごしてきたからかもしれません。でも、頬黒の位置は当たるので、他の欠点、読み方の違いという可能性もあります。

各サインの説明

[Aries. ♈のサイン]



牡羊のサイン… ♈は男性格であり、昼、東、トロピカル(カーディナル(活動宮))であり、季節が春(ホットでモイスト)の始めにある、ホットでドライ-胆汁質な火のエLEMENTのサインです。昼夜等分点を含み、湾曲して昇り、有害で、四足動物であり、乾いた陸地に住み、ローヤル[立派]、子供の少ない、簡単に変わり、短気で、嬉しがり、明るく燃え盛り、高慢な、獸的、肉欲的な、二股をする、危険なサインで、不摂生、激しい、辛辣なもの言い、派手な、増大するもの、雄弁で、常識外れで、宇宙のMCであり、火の性質であり、[書物などを]台無しにします。火星のドミサインで、太陽のイグザルテーションは18度台にあり、土星がフォールになり、金星がデトリメントになります。弱視であり、盲従し、半声であり、手に負えず、指令するもの、南東に向かって見ているサインです。一年の新しい季節の始まり、トリプリシティーの昼は太陽、夜は木星、関与星は土星です。

カーディナルとは、即効性はあるながら、持続性がないことを意味します。始めるのは得意ですが、続けるのは苦手です。牡羊は火のサインなので、ここに入った惑星は活動的であり、必ずしも思慮深く内省的とはいえません。牡羊のサインは、一般的に他人に気を遣うサインではありません。

♈のサインのルーラーとイグザルテーションから観察すると、ホットでドライな火のエLEMENTの意味が重なりあっています。カーディナル(活動宮)であることから素早く動くことと、持続性がないことも考慮されます。牡羊のサインのすべてのエネルギーは、動きが速く、外向きで、物事を開始するものです。これはまた、始めるのはいいけれど、終りまではちょっと責任を持ってない意味が付きまといます。このサインは受容性を持たず、内省的でもなく、自己を意識していないことを意味します。一年のうちの暖かい(ホット)季節、春の始まり(カーディナル)です。

カーディナルな意味が入り込んで、このエネルギーは、物事を受け入れるよりも、断定的で、自己主張をしていて、内省的ではなく、それでいて素早く行動を始めます。だから、終りまでは責任を持ってません。そこに、春の性質である、モイストが強く関わっています。つまり、ここに入った惑星は活動的ではあるけれども、必ずしも思慮深くない火星の性質を伴わせていることを示すのです。ホットでドライであることから、他人を気遣うサイン(背景)ではないことが分かります。ホットでドライがどのような性質であ

るかは『星の階梯 I』をご参照ください。

コールド&ドライな土星はここでフォールです。土星のコールドな静止状態と、牡羊のホットな活動的な動きはまったく正反対です。それで、このサインに入った土星は機嫌が悪くなります。

繊細で包容力のある、しっとりとした金星はここでデトリメントとなります。このサインには、金星が働きかけるような受容的なものは何也没有ありません。

イグザルテーションの太陽も、ルーラーの火星も、共にホットでドライですから、牡羊のサインは明らかにホットでドライなサインなわけです。けれども、春のホットでモイストなエレメントに置かれていることは忘れてはなりません。

もちろん、最終的な判断は、太陽や火星がどのハウスのルーラーであるのか、そして、「取り組んでいる課題は何かによって」惑星の象徴性が変わるわけですから、これで全てを語れるわけではありません。

このような理由から、牡羊♈のサインが受容性を持たないと解釈されてしまいます。古典的な占星術のサインの意味は、理路整然と惑星の性質から導き出されているのです。特に、昼セクトにあるときは、そうなり易いものです。

逆に、デトリメントの金星と、フォールになった土星の意味も、サインの性質を語っている場面にも出くわします。土星のコールドでドライな静止状態は、素早い動きをするカーディナルなサインに相応しくないのです。金星は物事を受容するモイストな性質を持ちますから、受け入れることの嫌いな♈のサインを好しとしません。

しかし、単体の惑星のみで語れないのは、全体的なチャート次第になります。

サインの性質だけでは物事を語れないのは、もしここに金星が入っていてアスペクトで火星と結びついているなら、強烈なりセプションとなり、火星のマレフィックな悪さが金星に及ばず、却って金星にとって喜ばしくなる場面も有るにはあるからです。

テウクロスから伝えられたものは、

「有害で、四足獣的であり、乾いた陸地に住み、ロイヤル[立派]、不妊、簡単に変わり、短気で、明るく燃え盛り、宇宙のMCである。増大するもの、雄弁で、常識外れで、火の性質であり、[書物などを]台無しにする、肉質、弱視であり、盲従し(自主性が無い)、半声であり？ 手に負えず、[♍のサインへ]指令する³。黒い瞳、頭の前面が禿げ、威厳があり、細身で、均整の取れた脚、

³ ♍のサインと、昼の長さが同じことを表すのに、コマンドリングを使っている。

感じの良い声、[そして、彼らは]寛大である。」

シンボルマークは、正面から見た牡羊の頭です。宇宙のミッド・ヘブンと書かれているのは、テーマ・ムンディと呼ばれるチャート(宇宙の誕生のチャート)があるからです。

[Taurus. ♉のサイン]



牡牛のサイン… ♉は女性格であり、夜、南南東、フィクスト(固定宮)であり、季節が春の(ホットでモイスト)の中ほどにある、コールドでドライな — 黒胆汁質[別名、憂鬱質]な地のエレメントのサインです。湾曲して昇り、判断力が良く、怠慢で、無頓着、半声だとされ、嘘つきで、好色、みだらで、完成半ば、蹄のある四足動物的な、[手足などが]不自由、四肢の短い、子供の少ない、言葉足らずの、不妊(土地が痩せ)、不変、陸(地)に富をもたらす宇宙の[ハウス]で、終点—起点(駅)となります。金星のドミサイルで、月のイグザルテーションは2度台にあり、火星がデトリメントで、何もフォールとなりません。最後部から上昇して右側を組み建てます。より大きな部分は、宇宙の見えない[パーツ]に位置していて、♉のサインは南に向かって見えています。獸的、家庭的、ゆったりとしています。トリプリシティーは、昼は金星、夜は月、関与星は火星です。

♉のサインは、春のホットでモイストなエレメントと、牡牛のサインの持つコールドでドライな地のエレメントの意味が重なり合って様々な意味を形成しています。また、フィクスト(固定宮)であることから、堅牢性と持続性を兼ね備え、一時的な物質による安定感を与えます。物質が一時的な安定感を与えるというのは、物質そのものはエレメントの世界で、結局、不安定だからです。牡牛と名前が付いていますが、女性格であることを忘れてはいけません。

温かくモイストで包容力のある金星が、ここで支配権を持ち、大地を肥沃にするために潤いをプラスします。同じホットでモイストな月が、ここでイグザルト(崇められ・尊敬)されます。金星や月が女性的に物を生み育むことを考えると、春の季節に大地に成長し出した若い芽吹きを大切に育てていく様(さま)、それを実際に表しているのだと思えます。そこには、どうしても湿り気と、物事を受容する強い決意を必要としているのです。月は肥沃な惑星ですし、金星も女性的な性質を強く持つ惑星です。母親の温かく湿った子宮や、湿った肥沃な大地は、子供たち、種々の植物たちにとって最も安定した温床と捉えられるでしょう。

私はこれを、季節が暖かくなって植物が実際に成長し始める時期の、春のしっとり

とした肥沃な土壌のようなものと捉えます。持続的で安定した大地と、フィクストのモードを加えると、その重厚さ、安定性、信頼性、受容性、頑固さを強調します。

このサインでデトリメントになるホットでドライな火星は、春の肥沃な大地には相応しくなく、その激しく乾かそうとする強い力は大地を切り裂く剣のような効果があります。あなたも、乾燥してひび割れた大地を目にしたことがあると思います。このサインの持つ受容性や安定性と、火星の持つ攻撃性がまったく合い入れないのです。ここに必要なのは湿り気なのです。

太陽は穏やかなホットでドライなので火星ほど嫌われませんし、物事の成長には欠かせない暖かさとなります。

レトリウスはコンペンディウムの中で、♊のサインにフォールになる惑星が無いことを、次のように語ります。月は運命を運ぶ惑星なので、善き運を運んでいる場所(♊)には、何も悪い運命は無いからだと言います。そのオポジション(♋のサイン)では、月がフォールになるのですが、悪い運命の場所では何物もイグザルテーションにならないとも言います。何も良いことが無いからです。

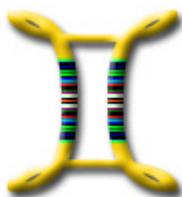
テウクロスから伝えられたものは

「半声だとされ、完成半ば、四足獣的であり、切り刻まれた、不毛であり(土地が痩せ)、不変の、陸(地)の、富をもたらす宇宙の[ハウス]、淫らで、終点—終焉(駅)である。真っ直ぐな髪、そして、重々しい精神性と、家から追い出された人々を示す。」

牡牛のサインのシンボルマークは、(真正面から見た)ねまり牛です。

※ テウクロスのものには、富をもたらす宇宙の[ハウス]とあります。先のテーマ・ムンディから観察すると、天[MC]からの2番目(資産)、天からのお金とされる11番目のサインになるからです。

[Gemini. Ⅱのサイン]



双子のサイン… Ⅱは男性格であり、昼、西南西、ミューダブル(柔軟宮)であり、季節が春(ホットでモイスト)の終端にあたる、ホットでモイストな — 多血質な風のエレメ

ントのサインです。斜めに上昇し、声を出し(うるさく)、バイコーポラル、ダブル・ボディッド、子を産まない、宇宙の12番目のハウスです。不毛、不妊、(増加に対する)減少を示し、礼儀正しく、寛容で、遊興に秀で、哲学・天文学を好み、気前の良い、記憶の良い、大衆気質、(精神性に対して)肉体的です。筋骨たくましく、人間の形を備えています。水星のドミサイルとなるサインです。イグザルテーションはノース・ノードですが、いまやその意味を知る人はいなくなりました。木星のデトリメントのサインです。Ⅱのサインは南西に向かって目を開いています。トリプリシティーは、昼は土星、夜は水星、共通のものは木星です。

季節の終わりのサインは、全て優柔不断で二重性を持つサインです。二重性はそれぞれ、現在の季節と次の季節の境目にあるので、あるときは春の様相を呈し、ある時は夏の様相を醸し出すからです。バイコーポラル(bicorporal)や、ダブル・ボディッド・サイン(double bodied sign)と呼ばれます。風のサインの全て(☐、☒、☓)は、海と大地を象った平行線をデザインした形です。風のサインが二重性を持つという説は、2つの線からできているとした認識の誤りからきています。風のサインは、二重性を持つものもあるというだけです。

水星(本来はコールドでドライ)がルーラーです。とても力強くても、「自分のエレメントにいる」ことが、必ずしも最も有用で実用的とは限りません。水星は、この風のエレメントのサイン(ホットでモイスト)で他とつながることを好みますが、同時に可変性があるために方向性を失うことがあります。

木星(ホットでモイスト)は、[※ 同じエレメントで繋ぐ要素がありながら]、このサインでは、風がすべての方向へと拡散してしまい、收拾が付かなくなります。風としては、これ以上ないくらいに軽快な風になるのですけれども、木星が入っていると、これが木星(同じホット&モイスト)をデトリメントにします - 木星は作り上げた物を拡大することで最も効果を発揮しますが、木星はここで拡大するよりも、むしろ“散乱”させます。風(ホットでモイスト)の要素が強くなり過ぎるのです。

テウクロスからもたらされたものは

「声を出す(うるさい)、斜めに上昇する、バイコーポラル、半ば子を産まない、宇宙の12番目のハウスである。筋骨たくましく、人間の形を持つ、南西に向かって目を開く、水星のドミサイルのサインである。眉毛が長く、前頭部が禿げ、速足で歩く、ビジネスに精通した、裕福な人物を示す。」

双子のサインのシンボルマークは、風によって天に運ばれた水が再び地に帰る雨模様と、数字の2、そして双子を端的に表す形となっています。

注：すべてのミューダブル・サインはダブル・ボディッド(双体・バ

イコーポラルなど)と表現されますが、これはサインの前と後の両方の要素を持ち、不安定さ、サインの揺れ動く性質と一致するからです。また、すべてのミュータブル・サインには、モダンな占星術で言われることですが、自己反省、精神的な性質があるように思われます。私は、それは全てのサインにあると考えます。

[Cancer. ♋のサイン]



蟹のサイン… ♋のサインは女性格であり、夜、北、トロピカルであり、夏(ホットでドライ)の季節の始めにある、コールドでモイストな — 粘液質な水のエレメントのサインです。夏至点を含み、ここから徐々に黄道は東から昇るときに垂直に近づき始めます。多産で、無口なサインであり、カーディナルなので変わり易く、掘る者、肌が荒れ、淫らで、湿っぽいもの、宇宙のアセンダントとされています。よい明示、常識的です。月のドミサイルであり、木星のイグザルテーション・ディグリーが14度台にあり、土星がデトリメントで、火星がフォールになります。トリプリシティの昼は金星、夜は火星、関与星は月です。

水のサインですが、夏の水は冷たい水ではありません。温かく、能動的な、動いて出て行く水で、停滞せずに流れる水です。動いている水なので、植物にとってはまたとない生育を助けてくれる水となります。植物だけに限らず生育を助長する活動的な水は、生命体にとって必要なものとして捉えられています。月の早さも考えると、♋の水は全てのものを育みながら速く流れる急流の性質と考えられ、早瀬であり、全力で素早く動く勢いのある流れです。活動的で、育成的な性質があり、成長が本格化する夏の季節の最初のサインです。

夏のホットでドライな季節の中のコールドでウェットなエレメントの♋のサインには、幾らか矛盾した性質が投げ込まれています。ホットでドライな夏であることから、外に向けた活動性もあり、同時に、親が子供を見るように、母親の保護的(内向きな)な性質も持ち合わせているのです。♋のサインのドミサイルである月は、この季節のホットな性質と相まって、更に強い母性で育むこととなります。女性としての注意をする目配せは、家事をしながらも子供にも目が行き届きます。男性にはそれができません。水のサインの中のカーディナル・サインですから、最初に動き出す所となります。

月、母なる惑星が支配するこのサインは、— 育児、母性、保護、家族愛など、私たち

が連想する母性のほとんどの意味が、月によってもたらされています。夏のこの時期は、一年のうちでもっとも多くの生命が育まれる時期です。

なお、太陽と月の2つのルミナリーズは、夏の最初の2ヶ月間、最も光の多い時期に♋と♌のサインに贈られています。

木星のイグザルテーションは、木星の広がりのある大らかな性質が、物事を構築して広がっていく性質がこのサインに与えられたものと調和していて、樹木に似た、細胞レベルでコツコツとした繊細で育むような性質を与えられ、しかし全体としては大きく成長する性質として、水の力を借りて成長を促します。

土星がデトリメントになります - コールドでドライな土星は、土嚢や堰(せき)として水の流れを妨げます。月は(太陽と並んで)健康や活力を司る惑星であるため、土星が♋のサインにあれば、健康や活力の妨げや制限を意味します。

火星がフォールになります - ホットでドライな火星の火の性と、水の性は思うように混ざり合えません。一般的に、フォールにある惑星は無視され、耳を傾けられず、尊敬されません。それゆえ、「見てよ」、「聞いてよ」といった行動がより目立つようになってしまいます。それが更に他者から疎まれ、嫌なやつになることもあります。すると火星は、ますます派手に行動するようになっていきます。自己主張の強い怒りっぽい火星が、他者を育てることを目指すサインにいるため、排他的な火星は、トリプリシティーを得ていますが、ここでは不機嫌になりやすくなります。土星と火星が豊かさを欠乏させていく惑星とすると、月と木星は豊かさを培う惑星です。土星と火星がこのサインで、デトリメントとフォールになるのがよく分かります。

テウクロスから伝えられたものは

「無言(ミュート)、変わり易く、掘る者、肌が荒れ、淫らで、湿っぽいもの、宇宙のアセンダント。よい明示をし、常識的、多産である。ある意味、二重性を持つ。暗い外観を示す[人物]、短い首、うぬぼれの強い、O脚の持ち主、又は、彼らの歩行は特徴があり、形の良い体系、物の浪費がある。」

♋のサインのシンボルマークは、昆虫のフンコロガシです。♋のサインには全ての甲殻類(蟹、海老、兜蟹、カブト虫等の昆虫類)が含まれており、その中から昼の長さが減り始めるような状態と同期する、後ずさりをするフンコロガシが選ばれたとする説もあります。

[Leo. ♌のサイン]



獅子のサイン… ♌のサインは男性格であり、昼、東北東、フィクスト(固定宮)であり、夏(ホットでドライな季節)の中程にある、ホットでドライな、— 胆汁質の火のエレメントのサインです。堂々としていて、先見の明があります。東から垂直に近い形で上昇する(日本では2時間と27分ほどかかります)、獸的、勇猛、支配的、命令を下し、短気で、不動です。怒りっぽく、勇敢で勇猛、上昇志向、政治的、大衆性を持ち、不毛・不妊、[物を]損なう、四足獸の、淫ら、宇宙のサクシダントです。たった1人の子供を持つとされ、東に向かって見えています。太陽のドミサイル、イグザルテーションとフォールになる惑星はありません。土星のデトリメントとなるサインです。トリプリシティーは、昼が太陽、夜が木星、共通のものは土星です。

不妊で、(増えることに対するとすれば、どちらかという)減少させます。太陽が唯一司るサインです。♌のサインは♍のサインよりも、より持続させる固定サインなので、物事や人物はととも強く留まることになります。ここは夏のピークなので、固定された、ドライな、容赦のない、安定した、終わりのないくらいの暑さを示します。

太陽がこのサインのルーラーであり、太陽がここにあれば他のどこよりも熱く強くなります。また、太陽がアングル(1、10)にあれば、最も目立ちひととき人目を引きます。

土星がデトリメントになります。最も熱くて明るいサインに、最も冷たくて暗い惑星があるとしましょう。暑さと冷たさが衝突し、加えて固定性が激烈過ぎることになります。土星は太陽と同じようにドライ(乾燥)ですが、獅子のサインは固定されているので、そこには柔軟性や受容性は一切なくなり、相反するものがぶつかり合うだけの膠着(こうちやく)した状態になります。もしネガティブであれば、ネガティブな類の硬直性を得ることになります。逆に、ポジティブであれば逆の硬直性になります。

テウクロスから伝えられたものは

「支配的、命令を下す者、火の性質、短期、不動である。怒りっぽく、勇敢・勇猛、上昇志向、政治的、大衆性を備え、不毛・不妊、四足獸的、[物を]損なう、淫ら、宇宙のサクシダントであり、1人の子供を持つ。青ざめた顔つきの人物であり、不具であり、非常な切れ目で(目ざとい)、大言壮語を語り、痩せ気味の歯、痩せ気味で姿勢が良く、声が低く、頑固で、[命を]育くむことを示す。」

獅子のサインのシンボルマークは、獅子のサインに投げ込まれた様々な王の中の、蛇の王であるバジリスクです。

[Virgo ♍のサイン]



乙女のサイン… ♍は女性格であり、夜、南南西、ミュータブル(柔軟宮)な、季節が夏(ホットでドライ)の終わりになる、コールドでドライな - 黒胆汁質[憂鬱質]な地のエレメントのサインです。夏と秋の季節が交互に訪れる時期であることから、ダブル・ボディッド・サイン、不安定とされるヒューマンサインです。全てのミュータブル・サインは内省的な性質を持っています。歴史に興味を持ち、研究をし、不妊(増えることに対すれば、どちらかという)減少し、トリプリシティの昼は金星、夜は月、関与する星は火星です。

♍のサインは、収穫の季節の始まりにあたります。柔軟なサインであり、夏が崩れ去り、秋が近づく気配の感じられる移行期です。変化の中にある大地であり、物事は安定しません。内省的ではありながら、夏の性質も残っているので、外に向かうホットでドライなエレメントも働いています。それは、収穫のさいに麦ともみ殻を分けるのと同じだと考えることができます。

水星が、ルーラーとイグザルテーションの両方になります。コールドでドライなサインに相応しい、コールドでドライな惑星であることと、水星は他と上手にコミュニケーションを取る担い手ですが、それには必ずホットな行動性を与えられている必要があります。ここは夏のサインで、もともとホットが備わっているからです。

また、これは、水星がドライな地のサインにあることで、この惑星がある種の構築物とその実在物を、示し合わせて与えるからです。火と水と風のサインは、何らかの流動性を表し、それに実態を与えるのが地のサインです。水星は、風のエレメントが働きすぎる(風はどの方向へも吹きます)、散漫になりがちな♊のサインにあるよりも、このサインのほうが、より詳細で実用的、かつ有用であり役立ちます。

夏の気配を残してはいるものの、秋が近づく気配も濃厚なこの季節はあきらかに柔軟な移行期にあたります。変化する大地であり、暑くなったり寒くなったりしながら、ダブルで、植物の実に見事な味を加えていきます。

ホットでモイストな木星が、ここでデトリメントになります。木星を植物にたとえると、

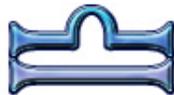
成長できる場所で広がり、生い茂りますが、コールドでドライなこの地では、摘み取られ、解体され、組み立てた物が取り壊され、ばらばらにされます。ホットでモイストと、コールドでドライな2つのエネルギーは、目的を異にして働きます。木星と水星という共に風を支配している2つの惑星は、明らかに目的を異にしているのです。木星が信仰と関連しているならば、水星は宇宙の理法を自分流に解釈する星です。(※ 占星術師は水星で表されています。悲観することはなく、もし真の信仰心を培えれば、木星と水星の至誠の調和が取れるでしょう)

テウクロスから伝えられたものは

「複合されたもの、夜の[サイン]、夏の気が残る、翼がある。3つの顔があり、理性的であり、下に向かって行き、表現力があり、地の性質。変わり易く、神秘的で、有用であり、肉体的(物質的)存在、バイポーラル、人間的な形態、不毛・不妊、宇宙のケータントである。良い容姿をしていて均整の取れた体付きをしていて、親しみやすく、快活で、情け深く、子供のように[行動]するので責められる。たいてい少年の愛好者となる。」

乙女のサインのシンボルマークは、聖母で、収穫を思い起こさせる小麦の束を持つ女性の姿で描かれることがあります。しかし多くの場合、腰を曲げて落穂拾いをする離婚を言い渡された女やもめだとも言われます。乙女は独身ではないのかも知れません。

[Libra ♎のサイン]



天秤のサイン… ♎は男性格、昼、西、トロピカル(カーディナル(活動宮))であり、季節が秋(コールドでドライ)の始めにあたる、ホットでモイストな — 多血質な風のエレメントのサインです。昼夜当分点を含み、東の空から垂直に近い形で上昇します。人間と関係のあるサインで、危険な、バランス、調和を取るサインですが、ドミサイルのロードである金星には、調和という意味がありません(間違えやすい所)。礼儀正しい、流暢に語る、感情よりも思考が優勢、哲学的な気質があります。トリプリシティは、昼は土星、夜は水星、関与星は木星です。

(※ 金星が調和という酔狂なものを持たないのは、彼女は宇宙の中の美女で、多くの男性の神々と浮気をしたので、神々の妻たちは彼女のことをよく思っておらず、表面的にはにこやかに挨拶は交すものの、他の女神からは疎ま

れているからです。もし、金星が調和という意味を持つのなら、昼夜等分点を司るもう一方のサイン、牡羊のサインのロードである火星もそれを持つはずです。)

秋の始めの、コールドとホットが共存するサインです。夜が昼より長くなり始め、太陽の衰えの始まる所です。夜の大好きな土星がイグザルテーションになり、太陽の衰えの始まる所ですから太陽がフォールになります。寒さが支配する2つの季節(秋と冬)のうち、収穫のピークであり、穏やかな気候帯で樹木の紅葉が始まり、葉は木から落ちる前に最も鮮やかに輝く季節です。

実りの秋のピークであり、穏やかな気候でありながらも、樹木の紅葉が始まる兆しの寒さが徐々に訪れてきます。ホットでモイストな受容性に満ち溢れた金星がこのサインを支配しているのは、ホットでモイストなコミュニケーションのサインで、広く人間関係を広げる、他を受け入れる形のつながりを持つサインとなります。天秤のサインの意味のほとんどは、人間関係、コミュニケーション、他の人々の必要とするものへの気配りと関係しています。また、天秤のサインはカーディナル(活動宮)なので、金星はより積極的に人間関係を築き始めることができます。秋のコールド以外にも、金星(ホットでモイストなロード)と風(ホットでモイスト)のエレメントの組み合わせも存在します。

ホットなサインはすべてのサインで活動的で、そこにモイストが加わると人間関係構築への積極性を持つことになります。繊細で受容性のある金星が、暖かくモイストな風のサインを支配しています。

土星がここでイグザルトになります。土星は判断と区別に関連していて、これが天秤のサインの他者への公正さとの関連性を得ます。昼のサインである暖かさ、モイストを伴った風のエレメントが、土星のコールドでドライな性質をいくらか和らげ、この星の最善の面を引き出しています。金星と土星の組み合わせは、天秤のサインから連想されるほとんどのものを与えてくれます - 土星は、客観的で公平な判断を、金星は他者への共感を与えています。

例えば、土星は制限や古い知恵に関連していて、天秤のサインは金星の持たない「他とのバランス」を象徴しています。それらのことから、「他社への公正さ」をこのサインが持ちます。サインの持つ意味と、惑星の意味のアンバランスは、やはり後から付け加えられたことを示します。しかしながら、多くの点で、これほどの整合性を持つサインの支配星とサインの意味ですから、古代の知恵者には舌を巻きます。

火星が、ここでデトリメントになります。火星はホットで外に向かう惑星で、それがコールドでドライな季節の、モイストな受容性のサインにあることになります。火星はもともと利己的な外へ向かうエネルギーを持つ惑星ですから、このサインの環境とは相性が悪くなります。天秤のサインの火星は、ホットでドライな性質を発揮できないほどの、モイスト優位なサインです。秋という多少ドライな面があるにしても、他との調和を目指すサインでは、イライラしてうまく振る舞えません。

太陽がここでフォールを迎えるのは、一年のうちで光と熱の力が衰え始め、昼よりも夜が長くなる時期だからです。また、太陽は輝くこと(私を見て！)ですが、天秤のサインは、人間関係や他人を大切にす所だからです。

テウクロスから伝えられたものは

「よくしゃべる。人間的、上昇志向、公平、風の性質、変りやすい、秋の性、宇宙のICである。共通性(コモン・サイン)を持ち、政治的、満ち欠けをする。節度のある人物を示し、黒い瞳をしていて、美しい髪をしている。辛抱強く、[そして]公正である。」

天秤のサインのシンボルマークは「はかり(秤)」であり、重さを量ること、受け入れることと拒絶することのバランスをとることを示唆しています。また、風のサインのカーディナルとして、風が吹きわたり空に入道雲が出ている様子ともとれます。

[Scorpio 蠍のサイン]



蠍のサイン… ♏は女性格であり、夜、北北東、フィクスト(堅牢な)サインであり、季節が秋(コールドでドライ)の中央を占めている、コールドでモイストな - 粘液質の水のエLEMENTのサインです。危険なサイン、繊細、偽りの、裏切りのサイン、多産、無口、秘密主義、深く感情的、嫉妬深いサインです。♏のサインは水のサインの中で最も「粘着性」を持ちますが、その理由は固定宮であること、地のエLEMENT(コールドでドライ)であることからきていて、停滞する水、よどみのある水、匂いを発してしまうような汚れた水が想定されます。あるいは、粘着性のある液体、リキッド状の液体を想像されるかもしれません。こういった粘着性のある液体も、世の中には必要なところがたくさんあります。グリス等の粘液状のものがあげられます。トリプリシティーは、昼は金星、夜は火星、関与星は月です。

解剖学的には、♏のサインを頭として、♏のサインを首、♏のサインを腕片手指としていくと、♏のサインには生殖器が当てはまります。女性は、月に一度血を流すことになるので、女性格の惑星・月はここでフォールになります。別名、バイア・コンバスタと呼ばれる場所で、♏のサインの15度から♏のサインの15度まで広がると言われています。しかし、血を流す月だけが影響を受けると言われていて、ネイタルでは読み取るのが難しく、最初はあまり重要視しなくてもいいでしょう。

季節はコールド&ドライな秋、サインはコールドでウェット、そしてフィクストです。ドミサイルの火星は、ホットでドライ。全てのエレメントが見つかりますが、優位なものを見つけなくてはサインの意味が構築できません。この時節は一年の中で樹々の葉が茶色く色づき、やがてしおれて枯れ、朽ちて裸にされます。徐々に夜が長くなっていきます。そのように定着させるエネルギーは、やはりコールドです。定着したこのコールドと、ドミサイルのロードである火星は、強く外へエネルギーを押し出す火星です。女性格のこのサインは、より内面的で外に向かっては出ていきません。火星は外へ出ていこうとします。この矛盾から、火星はこのサインに激しさという評判を与えました。熱く輝く固定されたサインの火星は、例えれば、強い圧力で大地の下に閉じ込められたマグマと考えてもいいでしょう。シェイクスピアは占星術を学んだのか、「氷の炎」という表現を使いました。まさに、長い間、固定された氷の下に閉ざされた熱い火です。水中で戦う戦士であると表現した占星家もいます。

内側に引き込まれて、地に入っていくようなエレメントの動きが示されます。したがって、いかに火星といえども活動的にはなれません。地と水を掛け合わせると、泥水になります。ただし、西洋占星術で考えられる水は、水道から流れて来るような水を想定していません。土石流であり、暴流であり、津波のような破壊的な水です。ですから、暴れん坊の火星が♃のサインの支配星となっているのです。

金星がここでデトリメントになります。この季節のコールド&ドライ、そしてサインの固着する性質が、ホットでモイストな金星の包容力に対して働いてしまいます。ホットなことを好きな彼女に「動くな」と命令をくだしているのです。この季節の火星が支配するこの場所では、金星の持つホットでモイストな性質をなかなか表現しにくいものにします。金星は外に向かっているときが最も表現力が豊かですけれども、このサインのエネルギーは、火星にもそれを強いますが、常に強く内向きなのです。

テウクロスから伝えられたものは

「無言(ミュート)、水っぽく、多産で、破壊の因となり、下降する、荒れた肌をしていて、病みがちで、不動であり、短気であり、洞察力があり、狡猾で、彫刻家。暗い表情と、黒い目の人、厳格で、縮れ毛、弱い声で、勇敢で、迅速で、尊大な人物を指し示す。」

♃のサインのシンボルマークはもちろん蠍です。それは、火星の攻撃的なエネルギーが内側に向かっている様子を強調したものです。

月がフォールになります。ホットでモイストな月は、金星と同じようにここのエネルギーとは相容れない惑星なのです。更に、バイア・コンバスタにもぶち当たり、立つ瀬の無い状況に追い込まれます。イグザルテーションの惑星が無いのは、先に♋のサインで説明した通りです。

[Sagittarius 射手のサイン]



射手のサイン… ♐のサインは男性格であり、昼、東南東、ミュータブル(柔軟宮)であり、季節が秋(コールドでドライ)の終わりにある、ホットでドライな – 胆汁質な火のエLEMENTのサインです。東から上昇するとき、2時間を超える最後のサインであり、半獣の性質、(精神的に対して)肉体的でありながら、同時に秋の哲学的なサインです。火のサインの中でも最も柔軟(ミュータブル)で思慮深く、知的(ヒューマン)なサインです。自由を愛し、願望や理想を持ち、そして理想を達成するための努力として表現されます。トリプリシティーは、昼は太陽、夜は木星、関与星は土星です。

火のサインは元々、生活に必要な知恵を表すサインであり、つまり、生活に必要な火を使う知恵に関連しています。人が火を使えるのは、火を消すことを知っているからです。前半はヒューマンで、後半が獣的で勇猛なダブル・ボディッド・サインです。

晩秋は、動植物たちが積極的に肉体的な育成を遂げる時期ではありません。ホットでモイストなELEMENTよりも、季節のコールドでドライが効いているサインです。振り返って考えてみると、秋のサインには1つもコールドでドライなサインがありません。全てがそれ以外のサインなのです。それなのに、秋のエLEMENTであるコールドでドライがそれぞれのサインに効いてしまうのは、如何にコールドでドライというELEMENTが強いか、ということにもなります。そこに、ホットでモイストな木星がドミサイルのロードで登場して、幾分か秋のエLEMENTを緩和しているのです。

射手のサインの意味は、このサインのルーラーである木星によって大きく彩られます。知的で思慮深く、法律、哲学、慈悲深い楽観主義などと関連付けられた木星には、精神的な資質があります。季節のエLEMENTを除いて考えるわけにはいきませんが、♐のサインの火のエLEMENTと、柔軟宮であること、そして木星を混合したならば、このサインの大部分の意味を得られます。理想主義で、システム構築型の射手のサインは、このサインを支配する、火のエLEMENT、柔軟宮、そして木星に彩られています。

水星がここでデトリメントになります。季節のコールドでドライなELEMENTと、水星のコールドでドライなELEMENTが重なると、本当に動けなくなってしまいます。コミュニケーションにおける繊細さや、定義に重点を置くことをやっける水星の性質でも、動きが止まると簡単に表現できる場所ではなくなります。ここでは、水星の否定的なイメージに関連する、パテン師、嘘つき、信頼できない、欺瞞的といったものが表現されてしまいます。

射手のサインのシンボルマークは半人半獣の射手であるケンタウロスです。そのときどきに、人か獣かによって、理想主義的であったり、肉欲的な官能主義のなわがままであったりすることが知られています。

テウクロスから伝えられたものは

「支配するサイン、人と動物の形をしている。強靱で、二面性を持ち、陸棲であり、後半は四足獣的、弱い目、半声である。そして、それが二面性であると言われるのは、頭の後ろに王冠を冠るための別の顔を持つためである。秋の火性であり、半不毛である。宇宙のケーダントであり、奴隷のハウスである。迅速で向こう見ずで征服しがたい。狭い見で意見を度々変える。」

射手であるケンタウロスの放つ矢には、矢文が付けられることもあります。そのシンボルマークは、矢とそれに付けた手紙です。

[Capricorn ♑のサイン]



山羊のサイン… ♑のサインは女性格であり、夜、南、カーディナル(活動宮)であり、冬(コールドでモイスト)の始まりにある、コールドでドライな - 黒胆汁質[憂鬱質]の地のエレメントのサインです。冬至点を含み、東から上昇するときに湾曲しながら2時間を切って昇り始め、危険で、獣的、地味で困難な仕事、慎重、警戒心が強く、現実的、権威を求めない、家庭的なサインです。トリプリシティーは、昼は金星、夜は月、関与星は火星です。

モダンな星座占いの本を見ると、しばしば「山羊座は野心的で勤勉で、世の中を征服し達成することを必要としています」と書かれています。これは、♑のサインの性質というよりも、太陽の性質(野心、突出、行動)です。コールドでモイストの季節の、コールドでドライなサイン、ドミサイルのロードが土星で、イグザルテーションの火星だけがホットでドライです。これらの混合した性質から、野心的な心情が導き出せるのでしょうか？ 自分自身を前面に押し出すには、もっと行動力を伴わせたホットが必要です。おまけに女性格です。どうしても、消極性しか導き出せないのです。

「山羊のサインがアセダントにあると、山羊のサインにある太陽とよく似た性質を持つ」との記述も見かけます。これも、太陽の性質に傾き過ぎた解釈です。それはきつ

と、山羊のサイン自体ではなく、太陽がそこにあることによる機能が、まことしやかに記述されている例です。

チャートの中では、置かれている惑星が主役で、置かれたサイン(環境・背景)から惑星たちが何かを受け取るのです。太陽も例外ではありません。山羊のサインに置かれた太陽の場合、このサインの持つ控えめで恥ずかしがり屋の面が強調されてしまいます。モダンな占星術に書かれている♍のサインの記述が、古典的な意味合いとは噛み合わない最も乖離したサインです。

実際には、カーディナルと地のエレメントも、少々矛盾しています。カーディナルは始めることを可能にするサインですが、行動する力のホットが少しならず、もし、スタートしたならば、カーディナルは長続きをしません。けれども、地のエレメントは物質を構成しますから持続的な意味をも持っています。他のカーディナルなサインよりは、開始したとしても、地のエレメントがそれを継続させることができます。

サインの意味の中には、ドミサイルのロードや、イグザルテーションとなる惑星の意味も加えられます。サインそれ自体は、季節のエレメントと、そのエレメントの混合したものです。しかし、♈のサインの所でも述べたように、コールドでドライというエレメントは、4つのエレメントの中では最も強いのかも知れません。そうやって組み合わせて考えていき、惑星のエレメントを考慮し、入っているアングル、ケーダント、サクシダントを考慮し、そこに惑星があることによる機能を優先させます。他の惑星とのアスペクトとリセプションを考慮するのは、その後です。サインを観察する際にも、リセプションの理解は必要になります。

土星は特に外向的でも、野心的でもないため、山羊のサインは慎重で、警戒心が強く、現実的であり、必ずしも世俗的な達成のために努力するわけではありません。山羊のサインをアセンダントに持つ人は、おとなしく、プライバシーを重んじ、野心的でも活発でもない場合が多いものです。支配星である土星を重んずれば、それは完全に理にかなっています。再度述べますが、サインのみで考えると、山羊のサインは冬のコールドでモイストなエレメントと、コールドでモイストな♍のサインのエレメント、そして、ドミサイルのロードであるコールドでドライな土星、そして、ホットでドライな暴れん坊の火星、また、デトリメントとなった月の性質を発現させにくくするものと、フォールになる木星を認めない意思が複合されたものです。これが、♍のサインに入った惑星の働きに色を添えるのです。

このように繰り返し見てきたように、サインは、その色彩と意味を、そこでディグニティーを持つ惑星から大きく受け取っています。また、デトリメントやフォールとなる惑星からも、際立った性質が添えられています。ですから、山羊のサインに入った惑星は、しばしばドライで現実的、淡々となってしまう、表現が事実に忠実な性質になります。土星がそこを支配しているからです。

火星が山羊のサインでイグザルトになります。これもある意味、山羊のサインが野心的で勤勉、努力家であることを連想させるところでしょう。しかし、ホットでドライな火星がコールド&ドライなサインで活動するというよりも、火星が冷やされることによって、大人しい、おとなしくて快活な火星として表現されると考えられます。♏のサインでも、火星は冷やされることでルーラーになっています。火星はここで熱くなり過ぎることがなく、野心的にならず、実用的な、まさに使える輩になるのです。

サインは、デトリメントになった惑星や、フォールトになった惑星から、幾分ネガティブな色彩を受け取ります。月はここでデトリメントになります。一年で最も寒い季節に、コールドでドライな土星に支配された、ホットでモイストな月が、コールドでドライなエレメントにあることになります。これでは、月が共感したり、育んだり、同情したり、成長を助けたりするのに適した場所ではなくなります。感情などは気にせずに、月は目の前の現実的な仕事に取り組みなければならないので、言いたいことのすべては言えなくなります。

占星術師のサエルは♏のサインにある土星について、極めて悪くなることがあると書いています。私も、2018年から2020年にかけて、ホラリー占星術でそれを何度も体験しました。特に夜セクトのチャートでは突出して悪さをします。2019年末からの武漢ウィルスの世界的な蔓延も、そういった時期に始まりました。コールドという要素が重なり過ぎるからです。木星がここでフォールになります。♏のサインは暖かくモイストな木星があくつろぐには、あまりにコールドでドライであり過ぎます。ここでの支配権を握る土星は、木星の行動に目を向けず、その言うことに耳を傾けません。

♏のサインのシンボルは「山羊」です。ある古い書物はこのサイン図像を、半分が山羊で、半分が魚の怪獣のようなものとしています。

テウクロスから伝えられたものは

「海と陸の両方に住み、荒れた肌、ハンセン病に似る、破壊の原因となり、不毛、下降する。半声、みだら、論に長け、二重の形（山羊と魚）、とてもウェットで、農耕を好み、半分を完成させ、動物的、不具、貧弱、宇宙のディセダントである。女性[異性]を好み、嘘付きで、うぬぼれていて、卑屈で、敬虔であり、友人を大切にし、信頼できる。彼らは援助を拒まず、したがって、何物も不足しない。雄弁であり、無謀で向こう見ずである。」

シンボルマークは、魚の足を持つ山羊です。少し不自由に思われます。

[Aquarius ♒のサイン]



水瓶のサイン… ♒のサインは男性格であり、昼、西北西、フィクスト(固定宮)であり、冬(コールドでモイスト)の真っ只中にある、ホットでモイストな – 多血質の風のエレメントのサインです。気立てのいい、貞節な、熱心にコツコツ貯める、壮大き、男らしさを熱望する、グルメで、東に上昇するときに傾きながら昇るサインです。悪心を持つ、鈍い、不精な、落ち着いた、俗事を心配する、宇宙のサクシダントです。ドミサイルのロードの土星からの意味と、♒のサインはヒューマンサインなので、習俗を知り、道理をわきまえ、礼儀正しい、人間的な姿も合わせ持ちます。土星の持つ反対をする資質は、常のものではありません。トリプリシティーは、昼は土星、夜は水星、関与星は木星です。

テウクロスの記述に下記のような♒のサインの文節があります。

その最初のデーカンには、エリダヌス座の川と、みずがめ座が上昇し、ケンタウルスの頭と、その手、または、広げられた右手と、ドデカオロスのトキの頭が上昇する。

The Twelve Signs from Teucer of Babylon より

この記述は、明らかに当時のみずがめ座(コンステレーション)から導き出される意味の前提条件となっています。サインの意味がほぼ3つ見出されると書いた証言とも合致するものです。サインではなく、恒星の意味が書かれていて、当時はこれが当てはまっていたことでしょう。しかし、現在エリダヌス座の星々や、ケンタウルスの頭とされる恒星は別の場所に移動していますから、同じ意味を採用できません。

水瓶のサインには、イグザルテーションになる惑星も、フォールになる惑星もありません。ですから、サインの意味は、冬のコールドでモイストなエレメントと、サインそのもののホットでモイスト、そして、ドミサイルのロードである土星のコールドでドライから導き出すこととなります。デトリメントの太陽が、本来の元気を無くし、故郷から遠く離れた場所に居ることも念頭に置かねばなりません。

危険なサインとは、土星や火星が、ドミサイルのロードであるか、イグザルテーションのロードの場合に、そうなるのだと伝えられてきました。特にここでの土星は、サインのエレメントと正反対です。冬の季節のエレメントである、コールドでモイストも強く作用します。

知性と知識は違います。火のエレメントは必要な知識で、ここ♋のサインのエレメントは風であり、知性と関連しています。風のエレメント(ホット&モイスト)は知性を表しながら、外へ流れ出る風であり、その風が固定された♋のサインから流れ出ています。土星そのものが、動く天球(惑星の天球)と、固定された天球(恒星の天球)の間にある反対方向のエネルギーを司る惑星ですから、土星の意味として、反逆、逆、矛盾といった意味が直ぐに思い浮かびます。だからといって、♋のサインに反逆、矛盾といった意味が完全に合致しているとは考えられません。このサインのホットでモイストなものが、中和するのです。

伝統的な占星術では、水瓶のサインは土星に支配されています。このサインに理想主義(風)なものがあるとすれば、それは硬直性を伴わせ、受容性や柔軟性に欠けたものになります。理想を追い求める人は、その理想を共有していない人に対して時として不寛容になることがあります。それはサインが土星に支配されていることと無関係ではありません。また、土星はこのサインに、ヒューマンサインでありながら、集団主義的な趣をさらに高めています。これは、非個人的で集団指向のある土星の日和見主義によるものです。

太陽はここでデトリメントに置かれます。太陽は♍のサインから♋のサインに至るまで南半球側にいます。最南端に居るのは1つ前の♎のサインですが、本格的な季節は通常1か月ほど遅れます。この時期の太陽の光と熱はとても弱く、真冬で寒く、ほとんど非個人的な土星の支配するサインとなるのです。

テウクロスから伝えられたものは

「声を出す、新鮮さを産み出す、とても寒い冬で、下降する、人間的な形状、不動の、子供がなく、心配性である。古風(時代遅れ)、貧弱、(俳優が)へまをする様なこと、猫背である。宇宙のサクシダントであり、[および]DESC(ディセンダント)の[サクシダント]である。癒えやすく、敏感で、うぬぼれていて、清潔を好み、それは良い彩色を意味している。」

水瓶のサインには、よく「水を運ぶ人」の図像が描かれています。サインのシンボルマークは海と空に嵐で大風が吹き、なみなみと水の蓄えられた状態を表しています。凸凹の様子は、道が荒れた状態であるとか、光が屈折して進むとかにも解釈が及ぶことがあります。

[Pieces 魚のサイン]



魚のサイン… ♋のサインは女性格であり、夜、北北西、ミュータブル(柔軟宮)であり、冬(コールドでモイスト)の季節のしんがりを受け持つ、コールドでウェットな – 粘液質の水のサインです。行動を無理して起こさない、感受性の強さと同時に肉感的、東の空を傾きながら上昇するサインです。コールドでモイストな水の中で終端位置にあるコールドでモイストです。♍のサインのように固形物(秋のコールドでドライ)を含んでいないため、物を形作る要素がありません。女々しく、動かないダブル・ボディッド・サインです。トリプリシティーは、昼は金星、夜は火星、関与星は月です。

魚のサインの水(コールドでモイストが重なる)は、つなぎ留めておくのが難しく、柔軟であり、受容的なものです。水のエレメントに付いて話しておかなければいけません。水は風に次いで柔軟であり、多少の粘着性も持ちます。これが、境界線を無にしてしまう性質になります。同化して1つに結び合わせるのです。感情は対立することもあります。同化とは、対立を無にしてしまうことです。受け入れて、飲み込むという表現もできるでしょう。ギスギスする感情さえも受け入れてしまうなら、それこそ水のエレメントです。怠惰であるのは、全てを受け入れることから来るものと思われま。

感情的であることと、感受性があることは異なります。水のエレメントは、様々な感情を飲み込んでしまうと述べました。反駁する気持ちも、違和感を唱える心も、そうだねと同意する感情をも、全て飲み込みます。したがって、水のエレメントは感情的ではありません。飲み込むのです。古代の先生の一人は「飄々(ひょうひょう)」と表現しました。捉えどころが無いのです。水を手で捕まえて感じてみてください。一時すくうことはできますが、その水が手からこぼれて行くことをイメージすると、それも「水」です。水を感じる時には、水に飛び込んだ方が早いのです。水と一体化します。

しかし、感受性とは、全てのエレメントに反応する豊かな感性であり、水のエレメントだけに与えられているものではありません。全てのエレメントそれぞれに与えられていて、ただ、感性のアンテナの強さは、ホットでモイストなエレメントに受け取られやすく、♋のサインのドミサイルの木星や、このサインのイグザルテーションのロードとなったホットでモイストな金星や、月の持つアンテナの強さに、より強く受信されるものだと、私は考えます。

コールドでモイストな、これ以上に湿潤なサインはありません。♋のサインがカーディナルな流れる川で、♍のサインが停滞しがちなキッド状の水 – だとすれば、♋のサイ

ンは変幻自在な海であり、あらゆる方向に向かう普遍性を持ち、水のサインに関連する境目の無さを強調します。また、他のミュータブル・サインと同様に、魚のサインには自意識過剰な性質があると同時に、肉感的な要素もあります。

♏のサインでも述べたように、西洋占星術で述べられる水は、入れ物に入れて保存できるような少量の水を表しておらず、高い所から低い所へと行くにしても、暴流の様に流れの定まらない大きな水です。

♏のサインは、季節にとっても彩られています — 冬が終わりそうで、春がまだ来ない不安定な時期です。また、この時期は一般的に雨が多く、気候によっては雪解けが進み、冬の終わりから春にかけての雨や雪が降ります。そして、雪解けとともに、冬の間、雪の下で眠っていた去年の枯れた葉やしおれた植物たちが顔を見せます。

木星が♏のサインの伝統的な支配者です。木星の共感と思いやりは、ミュータブルで受容性のある水の性質と結び付き、ある種の普遍的で利他的な思いやりのようなものを与えます。しかし、木星の拡張性は、♏のサインの超ウェットで境目のない柔軟さと結びついて時に過剰なものをもたらします。それは自意識過剰な自己満足として、あるいは過度に自己を犠牲にすることとして表現されることがあります。

♏のサインのスピリチュアル(精神性)な側面は、現代の支配星である海王星と関連付いたものです。伝統的には、ドミサイルのロードである木星との関連性として、宗教や霊性と結び付いていました。魚のサインの究極は、何のわだかまりもない、飄々とした、澄み切った水のような心が底辺になるように、木星と金星が作り上げています。明らかに、これは感情とは異なるものです。木星は、ある種の普遍的で利他的な思いやりを与えます。

水星がここでデトリメントとフォールになっています。水星が、これほど豊富な湿気の中で表現することは、水の上に文字を書こうとするようなものです。

テウクロスから伝えられたものは

「無言で、善い(至る所でgoodが使われていますが、ギリシャの哲学で[良い]は、中庸を得ている、極端さが無い等です)、変わり易い、多産、好色、非常に湿っており、切断され、卑しい、色において多彩、肌が荒れ、不安定、みだら、一般的、うろこ状(一定しない)、宇宙のケーダントである。神のハウス、魅力のある髪、白っぽい顔色の人物を示し、洒脱(独創的)で、酒豪、浪費家である。」

魚のサインのシンボルは、オスとメスの魚が反対方向(北と南)に泳いでいる姿です。水の流れに従いながら、どこに行くのか確信のない状態です！

サインが示す場所

牡羊のサイン

[場所]

牡羊のサインは、羊や小さな動物達が草をはむ所、小さな動物達の小屋、犬小屋、砂地や小高い丘、盗賊の逃げ場所である。盗賊の隠れ家とされたのは、小さな動物たちは、肉食獣から守るため、又、逃げるのを防ぐために囲いを必要としたからであり、隔離された場所となった。周りから隔てられた場所は、隠れ家、ひいては、盗賊達の隠れ家となる。更に、往来の少ない領域、法律違反者、又は、裸体主義者が住むための差支えない避難場所である。あまり人の行き来しない領域等を表す。最近まで未開の領域であったが、野焼きをされたか、あるいは、新しく開墾された土地や耕作地や牧場である。牡羊のサインは東を表す。最近手に入れた土地、最近耕したばかりの田畑、煉瓦を焼いた所、石灰が多い場所。

家の中では、牡羊のサインは、屋根裏部屋、シールや漆喰で覆った場所。ホットでドライから、暖炉、煙突、かまど、オープンほか、様々な裁断が行われる部屋となっている。天井と屋根裏、部屋の東側の壁。ストレートな直線に沿うことを支配する。

牡牛のサイン

[場所]

牡牛のサインは、人里から離れている最近耕された土地、牧草地。人家の傍であれば、芝が刈り込まれ、木や植え込みが近くにある所である。牡羊のサインが表すよりも、少し大きめの動物たちの小屋、馬小屋、家畜用の道具を置いておく納屋、周りに家がない牧草地、大草原、最近開墾された場所。牡羊にも牡牛にも開墾された土地があるが、これらの大小の動物たちを住まわせる、放し飼いにするための広さを指す。小麦かモロコシの種をまいた場所、遠くに木のあるところ。牡牛に関係のある家畜小屋、飼育舎、牧場、および農地、灌木林、のどかな田園地帯。

家の中では、コールドでドライから、低い天井の部屋、および酒蔵のための場所である。家の一階部分。牡牛のサインは静かなところ、天井の低い暗い部屋、地下の貯蔵室、暗い押入、地下室、床にタイルを張った部屋などが当てはまる。牡牛のサインは、部屋の南東の壁を表す。ハッキリした線に従うことを支配する。

双子のサイン

[場所]

双子は急勾配で高い場所を示す。方角では歩いていける範囲の西南、通常昇ることが必要となる。納屋の屋根裏、郵便ポスト、倉庫、ポスターを張る場所、広告掲示板、通りや方角を表す標識、風見計、風速計、信号、交通信号機および迂回のサイン。板張りの部屋、ホール、遊びに使う部屋、ガランとした納屋、喫茶室、高い場所、風通し

のよい場所、丘や山、2階以上で、そこにある居間、読書部屋、高い場所にある敷地、物をしまう箱。

家の中では、双子のサインは階段、及び階上の部屋を表す。エスカレーターやリフト、研究室、勉強部屋、遊び部屋、電話ボックス、読書室、部屋の隅を示す。双子は、部屋、あるいは家具類の上部をも示す。大きなトランク、整理ダンス、ファイリング・キャビネット、あるいは貯蔵容器の上の部分。双子は西の壁。選びかねる線に沿うことを示唆する。

蟹のサイン

[場所]

蟹のサインは溜池、井戸、水槽、泉、噴水、プール、湿原、溝、堀、運河、水道、排水、川、よどみ、湖、池、流水、給水栓および水道のラインである。その方向は北である。コールドでモイストな性質の場所。海、海岸、河口、入り江、大河川、泉、航行できる領海、沼地、(豪雨の時に)にわかにならざる水たまり、ランドリー、水槽。

家の中の蟹のサインの場所は、ワイン・セラー、溝、シスターン(溜)。キッチン、湿っぽい地下室、洗濯場、洗濯機の中、水溜め、そしてポンプを表わす。また配管設備を示す。家の北の壁に向かう。惑星が位置するハウスの、不規則な線に従う。

獅子のサイン

[場所]

獅子のサインは、もともと森林、ジャングルを表す。獣の巣窟、砂漠、高い場所、岩場、踏み入るのが困難な場所、要塞として役立つ自然の場所、及び、自然の要塞である。野生動物の頻繁に出る場所、森、森林、野性的で岩だらけで、不毛で、大森林と同じように人の踏み入らない所である。これによく似た場所として、公園、だだっ広い運動場、前庭、及び、その土地や通りの外観を増強するために植え込みが設けられた場所である。植え込みが設けられた駐車場や建物もそうなる。更には、分離帯、禁猟区、穴蔵、名前の付いた高いビルディング、城、映画館、劇場、宮殿、著名なビルなどとなる。

家の中では、ホットでドライな暖炉のある部屋。主要なホール、居間、遊び部屋、カードルーム、広い食堂、音楽室、男性の私室、暖炉、飾り窓。部屋の東壁の上方を指す。通常、整理整頓不足、または、大きな混乱によって錯綜した線に従う。

乙女のサイン

[場所]

乙女のサインは、より高いレベルの生産性をあげる場所を指し示す。肥料やバクテ

リアで改良された土地、達することの優しい場所である。庭、穀物畑、牧草地、牧場、搾乳場、家畜小屋、穀物用倉庫、乳製品化工場、カイバ置き場、動物の飼料を支配する。生産性の高いトウモロコシ畑、穀物貯蔵庫、ウイスキー醸造庫、干し草堆積場、チーズやバターを保管する場所、穀物、あるいは食料品販売業を連想する所、干し草の山。

家の中では、仕事部屋、ホームオフィス、事務所とか研究室、書斎、私室、書庫、食器棚、商品保管庫、フラットな床、あるいは低い部分。クローゼット、食器のストック室、機能的な机、薬箱、家の中で借すことのできる部屋、及び賃料の入る部屋を示唆する。用心のためにロックされた部屋である。乙女のサインは、西南、南の壁を示唆する。収入を得る線に沿うことを支配する。

天秤のサイン

[場所]

天秤のサインは、清潔である。小石交じりの砂利の土地を表す。山の斜面、山の牧草地、澄んで綺麗な空気の中くらいの高さの山岳地帯である。樹木が生い茂り、狩りにも適切な場所。ポツンポツンと建つ家のある場所。風車小屋の近くの原っぱ、未開拓の土地ではあるが平坦な地、そんな場所にある作業小屋、木こりの家、樽職人の仕事場、木を伐採した跡地、丘の横っ腹、

家の中では、家の最上階、寝室、屋根裏部屋、部屋の中の別部屋、書棚、高いところ。天秤のサインは、ホットでモイストな風通しのよい部屋、奥まった小部屋、湿っぽくない屋根裏部屋、衣装部屋、衣類を保持する大きな家具、あるいはその引き出しの最上段を支配する。天秤のサインは、西の壁の高位を示唆する。高い所の線に沿うことを支配する。

蠍のサイン

[場所]

蠍のサインは、湿地(寒々とした湿地、コールドでモイスト)を支配する。どこでも、水が流出する場所。汚物、腐敗してしまうものを流す場所で、爬虫類のナチュラル・ルーラーであるゆえに、水辺を好む昆虫類、節足動物などが好んで住む場所である。排泄物、あるいは悪臭、流れないプール(水溜まり)、タール穴、油貯蔵所、氾濫をする位置、污水溜めの近くで、流出してしまう場所である。虫や甲虫、特に毒を持つ虫が増殖するところ。湖、庭、果樹園、荒れ地、及び、泥だらけの場所、ブドウ畑、水辺の荒れ果てた小屋、泥沼、ぬかるみ、じめじめした土地。しかし、全ての水のサインには、その物にとって適切な、快適な場所という意味がある。

家の中で、蠍のサインは、シンク(洗いのゴミ溜り)、洗濯場、キッチンの湿った場所、寒い食品貯蔵庫、トイレ、下水道、流し、バスルーム、及び薬箱を支配する。それは

北東の壁を指す。北東を支配する。水のサイン全ての中で、特にコールドでモイストな線に沿って考慮することを支配する。

射手のサイン

[場所]

射手のサインは勇ましい。火のサインの中では最も品質が悪い場所を示す。高い場所にある土地である。住むには、通うのに時間がかかる。一目で分かる広大な面積の土地であるが、そんな土地は、寺院などの大きな建物にふさわしい。高台であり、そこに建つ建物は、はっきり目に見える土地を規定する。大きな馬用の、あるいは戦闘用の馬小屋、大きな四つ足動物用の小屋である。そのような大きな動物たちが自由に走り回れる野原であり、丘であり、平坦な土地でも、少し高台を持つ土地である。つまり丘陵や野原などでも、遠方を見渡せるところ、見晴らしのよい場所が備わっている。

家の中では一番高い部屋、ホットでドライな火のあるところ、暖炉やストーブ、ペチカのある場所。金庫が置かれている場所、あるいは弾薬が格納されている場合。上部階の部屋、家のより大きな物、及び、年長者を支配するので、年長者の部屋である。その他、兵舎、軍馬のための小屋(現代なら車庫)、及び、南東の壁を規定する。射手の前半は、人、後半は、獣、その線に沿わせたものを規定する。

山羊のサイン

[場所]

山羊のサインはもともと、山羊小屋、子山羊・仔牛の養われているところ、農業用の備品、農機具置き場、物置き小屋、ヤギ用の小屋、小さな船舶の用具類を置いてある所、木が保存された場所、実のならない痩せた土地、堆肥置き場、土が積まれた場所、藪、イバラの土地、及び、山路であった。ここから、見捨てられた場所、及び、スラム街を示唆する。人の住みにくい森林、砂漠、不毛の原野、及び、それらに位置する休閑地、鉱山、及び、枯れた井戸、無視された農場、岩山の山頂近く、断崖などを表す。

家の中での山羊のサインは、入口、階下の部屋、光の刺さない部屋、あるいは何か容易に置き忘れられるかもしれない床を表わす。地べたの有る部屋である。農器具と材木置き場、低い天井の部屋、暗い天井、希薄な光の差し込む部屋、家具付きの部屋、あるいは不快な部屋、古い付属物の備わる部屋、地面に近くて暗い角。部屋の南の壁を表す。曲がった線に続くことを示唆する。

水瓶のサイン

[場所]

水瓶のサインは、起伏に富んだでこぼこの土地である。このサインのマークから、凸凹が取られたようである。最近掘られた場所、採石場、様々な鉱物採掘場、ブドウ園、

泉が近い場所、噴水の近くである。使う用途を変更された土地である。ある意味では、機能性を高めるために、開墾された大地を支配する。現代では、輸送設備のために新しい建築物を建てて、起伏に富んだ形状を生かした交通設備を表す。そのための大地である。高速道路のインター・チェンジ等であろう。ホットでモイストなサインで、機能性を高めた場所である。

家の中では、屋根裏部屋、階上の部屋、窓の近く、水瓶のある場所(夜間電気温水器とか)、水道の蛇口。水瓶のサインは近代的な建築の、内装、設備装置、及び、快適な家具を規定する。方角では、北西を表す。適切な線に沿うことを規定する。

魚のサイン

[場所]

魚のサインは、本来、水の豊富な場所、恐らく海岸、あるいは入り江であり、水を溜めておく場所である。水は低い場所に流れ、高低に敏感である、あるいは水浸しになる。水鳥を見かける、魚が見つかる場所である。そのような場所には、豊富な葦や芦が生い茂る。水の多い場所や、泉のある場所、水溜りの多い場所を指し示す。養魚池や、魚の多くいる河である。低い場所とのことから、宗教上の階級で、僧院、修道院、独居坊、庵の中でも、より低い階級の者たちが座る部屋を示唆する。規則は更に引き継がれ、教会、病院、刑務所と言った建物、水や他の流体を利用できる部屋、ここから、医学的な実験のできる厳重に保管の行き届いた部屋となる。隠遁者の住処、きしみを発する家、寂しい一軒家のある場所、なんとなく寂しい家、池や堀の近くの家、水辺の家なども表す。水車小屋、井戸や揚水ポンプのある建物、または、噴水のある場所である。

家の中での魚のサインは、コールドでモイストな寒い部屋、天井の低い部屋、湿気の昇る床、厳重に保管の行き届いた場所からは、近づき難い部屋、ロックが掛かった部屋、より小さな部屋、そして適正な部屋となる。あるいは備え付けの家具のある部屋である。瞑想するのに適切な部屋、床を覆っている敷物、靴をしまう場所。その方向は北西である。快適性と、湿るという線に沿うことを規定する。

サインが牡羊のサインから始まる理由

ボナタス Liber Astronomiae ライバー・アストロノミアより

ホット、コールド、ドライ、モイストというのはとてもシンプルな四つの性質で、これらは増しも減りもしません。これらは、ホット&ドライ(火)、コールド&ドライ(地)、ホット&モイスト(風)、コールド&モイスト(水)として組み立てられています。それらは一方では影響と増加を示し、他の所では腐敗と破壊を示すものです。

牡羊のサインが始まりというのもとてもシンプルで相応しいものです。理由は、太陽が牡羊のサインに入ると、様々なものが影響を受け増え始め、太陽の影響を強く受け始めるからです。増えるということは他に増して尊いことですから、逆の欠点があるよりもその性質が相応しく、このことによってサインの並びは牡羊のサインからまさしく始まっています。

太陽が北の半球に来るときは、冬には湿気を帯びていましたが、春になって成長をうながす物事が成長する発生の時に移って行きます。他の要因が無ければ、一年中で一番多くの種が芽を出すのです。これらの事情によって、牡羊のサインにおいて他にサインが始まる所はありません。

サインの順番の理由

同上

まず、サインが置かれている場所に、同じような名前の星座が存在していたというのが大きな理由としてあげられます。プトレマイオス(トレミー)が長い間赤道付近に住んでいて、それらの事柄を観察していました。

他に、なぜこれらのサインの名前がこうなったかという理由は、太陽が牡羊のサイン(♈)に入ると暑さが増し始めるからです。というのは、北半球では春になって赤道と黄道の交点から太陽が北に来ると、太陽は徐々に天頂に近づいて行きます。このことから日増しに日差しが強くなり、これによって北半球では[日差しが]強くなると言われていて、それで獣のような力に対する畏敬の念を抱かせることとなりました。そのような理由から、太陽が牡羊のサインに入った時から暑さが強く認識されます。また、牛は羊よりも強い動物ですので、牡羊のサインは牡牛のサイン(♉)の性質に同化していきます。また、太陽の傾き、赤道からの距離は北半球の天頂まで、徐々に牡羊のサインにあった時よりも高くなります。太陽が双子のサインに入ると、太陽の強さはそこで倍化します。このダブルという意味の最初のサインが双子のサインである所以になっています。昼の長さは最も引き伸ばされ、赤道から最も離れ、太陽は北半球で最も天頂近くになります。

そこから太陽は再び赤道に向かって行き、昼の時間を減らしていくことになります。それが、蟹のサイン(♊)です。蟹が横ばいをする動物ですので、太陽は夏至点で昼の

長さが横ばいになります。そこから、太陽は次第にその昼の時間を減らし始めます。今や蟹のサインでカニが後ろに進むように、昼の時間を後退させていきます。蟹のサインを離れると、太陽は獅子のサイン(♌)に入ります。ライオンはとても頑固な動物だと思われていて、実際に太陽は昼の時間を減らしていますが、そこでは暑さや強さや鋭さは増しているように感じられます。その理由は湿り気が無く、空気が不純でより硬さを持つからです。ライオンは淫らで、強く、荒っぽい動物です。ですから、このサインの名前は、特にこの動物によっています。次に太陽は暑さの減る場所に移行します。もう二度と暑さは増しません。種(たね)を生じさせる場所に來ます。そこは処女宮(乙女のサイン[♍])と呼ばれます。処女は謙虚で妊娠をする行為をしていない生き物です。このため、不妊という意味と、(増加に対すれば)減るとの意味を与えられたのです。

この後太陽は天秤宮のサイン(♎)に入りますが、ここで日中の長さや夜の長さが等しくバランスを天秤のように保ちます。まだ暑さは残っていますが、それは減っていきます。つまり、暑さもバランスが取れているということです。全てのバランスが保たれていますが、ここから先は、寒さの方が強くなっていきます。そして、太陽は蠍のサイン(♏)に入ります。寒さが暑さをしのいで増し始めます。あたり一面がどことなく寒くなり始め、まだ幾分かは温か日もあります。空気は秋雨の為に、どことなく湿り気を帯び始め、ペストや死を運び来るような伝染病、致命的な毒のようなものを携えながら、悲痛で重大な病が起き始めます。この理由が、毒針を持つ蠍に由来しています。更に寒さが深まっていくと、燃える太陽が射手のサイン(♐)に入っていきます。ここでは、空気の入替えが起きてしまいます。寒くなるのです。霜を運ぶ風が発生し、また、風で生まれた雪と氷は、動物と野菜を刺し殺す矢のようになります。

太陽が山羊のサインに入ると、まるで暑さというものが死に絶えたように、寒さが刻一刻と増し始めます。寒さの最極端へと進み始めるのです。空気は次第に冷たくなり、病に至らせ易いものになります。また、雪は増し、最も大きな寒波、また氷や霜のようなものに席卷されます。山羊のサイン(♑)はコールドでドライ、憂鬱質な動物ではあるが、冬のサイン故に、人々は粘液質になってゆきます。

いまや太陽は赤道からその最も南へ傾いたサインを通過して、赤道に向かい、やがては戻る動きを見せ始めます。しかし、寒さは減り始めると思われがちですが、水瓶のサイン(♒)こそは、寒さの最極端なのです。しかしながら、その後半には、降る雪は、次第にみぞれ交じりに変わっていきます。空気はますます湿っぽくなり、その時から大気が繁栄の様相を呈し始め、水瓶のサイン(♒)の傾向が発揮され始めます。

その後太陽は魚のサイン(♈)に入ります。ここは水のサインであり魚は水に住んでいます。ここでの(地方によって違うのであるが)湿り気は雨をもたらします。雪やその他のものであっても、ここでの雪は他の季節に降るものよりも水に変わりやすい雪です。したがって、湿り気が多い魚のサイン(♈)で表わされるのです。

